

岡山市埋蔵文化財調査の概要

1995（平成7）年度

岡山市教育委員会

はじめに

岡山市は平成9年に岡山城築城400年を迎えます。現在、全市あげて記念行事を計画し、その準備に取り組んでいます。教育委員会も岡山城跡の史跡整備にむけ本丸中の段の発掘調査に取り組み、基礎資料の収集に努めてきました。現地説明会も年度ごとに開催しましたが、市民の関心の高さと期待を肌で感じることが出来ました。今年からはいよいよ整備に着手する年であります。

これからは、日常的に発掘調査及び整備事業も遂行していかなければなりません。岡山市の文化財行政の内情は、ますます過酷になっていくものと言えます。さらに、大量に出土する埋蔵文化財の保管場所も現状では厳しいものがあります。新聞、テレビ等で取り上げられ注目された遺物も、残念ながら気楽に見ていただける環境はありません。

このような環境に甘んじているわけではありません。遅まきながら、当市も平成9年度に埋蔵文化財センターの用地取得費が認められ、いよいよ建設に向けて一步を踏み出しました。近い将来には、市内出土の遺物を気楽に見ていただけることだと思います。

市民の要望と現状との間隙はまだまだ埋めがたいものがありますが、今年も現地説明会や発掘調査速報展を開催してまいりました。昨年に引き続き調査概要もまとめました。間隙を埋めるべく努力は続いています。

本書が市内における埋蔵文化財保護行政の一助となり、活用されれば幸甚に存じます。

平成9年3月

岡山市教育委員会

教育長 戸村 彰孝

例

言

1. 本書は1995（平成7）年度の埋蔵文化財に関する事業と調査成果及び保護行政の概要報告である。
2. 本書の執筆は全体編集が神谷正義、発掘調査の概要是各担当者が分担して執筆した。実測・トレースは各担当者が実施。そのほか、木村真紀・山元尚子さんの助けを借りました。
3. 本書に關係する実測図・写真・遺物等はすべて岡山市教育委員会で保管している。
4. 本書はあくまで速報性に重点を置いた内容である。したがって、紹介の調査成果は整理途上であり、正式な報告書刊行の時点で訂正される性格のものであることを御了承願いたい。
5. 遺物の洗浄・整理・トレース等で、多くの方々（氏名の列記は省かせていただきます）の協力を得ています。関係された皆様に感謝いたします。

目

次

I. 発掘調査の概要	3
II. 埋蔵文化財関連の協議と調整	36
III. 普及・啓発事業と刊行物	43
IV. 受領図書一覧	44

岡山市文化財係の紹介

1. 1995（平成7）年度文化財係の組織図と仕事



2. 担 当 職 員

文化課長 富岡 博司	文化財保護主事 斎崎 由
文化財専門監 出宮 徳尚	文化財保護主事 高橋 伸二
課長補佐 根木 修	文化財保護主事 安川 滉
主任 神谷 正義	
文化財保護主事 乗岡 実	
文化財保護主事 草原 孝典	
文化財保護主事 河田 健司	

3. 収 藏 施 設

赤坂収蔵庫
芳田収蔵庫

I. 発掘調査の概要

発掘調査（第98条の2）

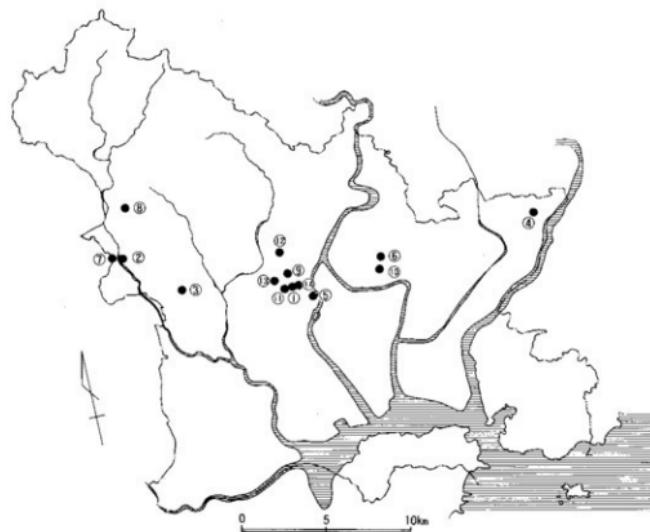
- ① 上伊福・南方（済生会）遺跡
- ② 三手向原（処分場）遺跡
- ③ 吉備津田洞後（鯉山小）遺跡
- ④ 西祖橋本（御休小）遺跡
- ⑤ 岡山城本丸中の段遺跡
- ⑥ 雄町遺跡
- ⑦ 庚申山東遺跡
- ⑧ 長坂古墳群
- ⑨ 津島新野（下水立坑）遺跡

発掘調査（第57条の2・3）

- ⑩ 関遺跡
- ⑪ 南方（中電）遺跡
- ⑫ 津島福居（市道）遺跡

発見（第57条の5・6）

- ⑬ 尾針神社南遺跡
- ⑭ 南方（岡山牛乳）遺跡



かみいふく みなみかた はすだ
上伊福・南方（済生会）遺跡（南方蓮田調査区II）

所在地 国体町

調査期間 950523～960331

調査原因 病院施設建設

調査面積 約950 m²

時代 弥生時代～

担当者 扇崎 由・安川 満

遺跡の概要 南方遺跡は旭川西岸平野のはば中央、南方1～2丁目、国体町にまたがる遺跡の総称であり、かつては遺物発見の地点ごとに旧小字名などから蓮田遺跡、宝崎遺跡、日本興油遺跡などとよばれたこともある。これまでに国立岡山病院看護婦寮、同地方循環器病センター、新幹線側道建設に伴い発掘調査が実施され、微高地に弥生前期から中期中葉を中心とする遺構が濃密に展開することが確認されている。

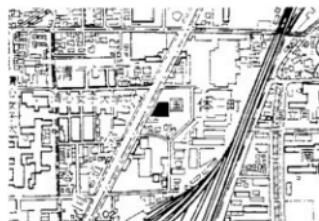
南方蓮田調査区は南方遺跡の北西端付近にあたり、済生会病院の施設建設に伴い92年2月から断続的に調査が実施してきた。95年度調査地点は前年度調査地点の西隣であり、南方蓮田調査区としては最終年度にある。これまでの調査では弥生時代中期の埋没河道及びその南岸にあたる微高地部分を検出しており、微高地部分では弥生時代前期中葉以降の遺構が検出されている。

調査の概要 当調査地点は大半が低地となっており、遺構としては平安時代～中世の水田、古墳時代初頭の水田、弥生時代中期を中心とする遺構及び河道を検出している。
平安時代～中世の水田 この水田はこれまでの調査で検出した水田の続きであり、上下2面を検出している。それぞれ明灰黄色～淡灰色砂の洪水砂によって被覆されているが、洪水砂が薄いこともあり上層水田上面において同時に両者の珪群を検出することができた。下層の水田は淡灰色微砂・シルトを、上層の水田は暗灰褐色微砂質土を耕作土としている。珪群はほぼ正方位を指向しており、調査区のほぼ中央には南北方向に大珪群が存在する。この大珪群は現状で幅1.2～2.0mを測り、復元後里地割りの里境にあたる。水田の区画は上層と下層で若干の変化があるものの、これまでに検出した10×10mの区画あるいは南北方向に長い区画と異なり、特に大珪群より西では十数m×18～20mの東西方向に長い区画になっている。

古墳時代初頭の水田 前年度調査地点で検出した水田の続きで、平安時代～中世の水田の下層約50cmにて検出した。明灰白色シルト質のごく薄い洪水砂に被覆されており、洪水砂のやや厚い北西部では良好に検出できたが、特に微高地側は洪水砂がほとんど存在しないこと、耕作土対応層に多量の土器片を含むことから不明瞭となっている。区画は斜面に平行な方向性をもった区画であると思われる。

弥生時代の遺構群 調査地点南部の微高地（微高地2）からその北側の河道、低湿地にかかる部分で、調査地点の大半は河道部分が占めている。検出された遺構は、河道流入以前（弥生時代前期～中期前葉）、河道とその埋没過程（弥生時代中期中葉）、河道埋没以降（弥生中期後葉以降）に大きく分けられる。

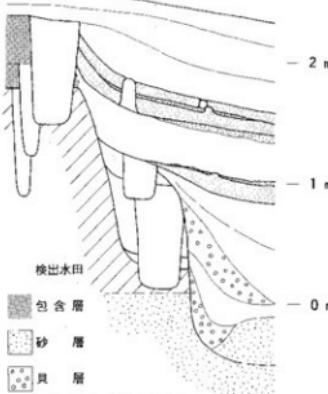
河道流入以前の遺構は大部分が河道により削られており、調査地点南側の一部に残るのみで前年度検出遺構との関係も確定し難い。弥生前期中葉から中期初頭にかけての溝群、中期初頭の大型土坑状遺構（SK562）



第1図 調査地点

造成 土

— 3 m

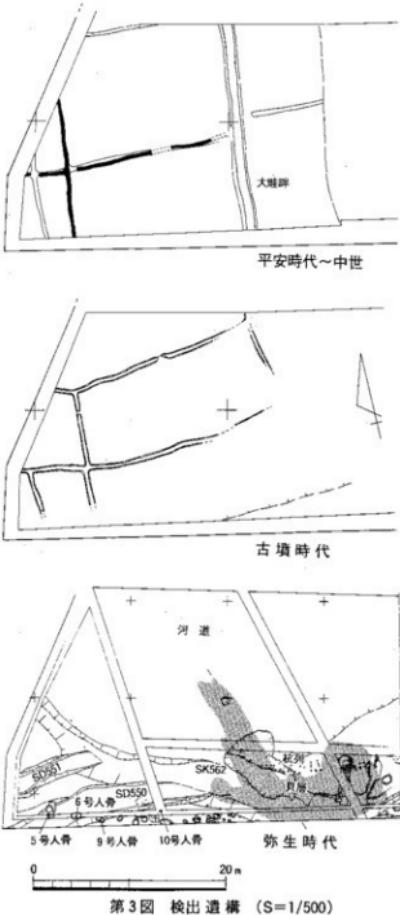


第2図 土層模式図

などを検出している。河道流入以前の景観は、微高地2が南西側で明黄白色粘土・シルトを基盤とする海拔60cm程度の低平な「微高地」となっていることから、微高地1と一連の後背湿地的な状況であったと思われる。この後背湿地には前期中葉～後葉の土器を含む黒色粘土～淡灰色粘質砂が堆積しているが、低湿地性の自然堆積及び微高地2側からの斜面堆積的な土層と思われ、水田など積極的に利用された痕跡は見いだせなかった。溝群のうち前期末～中期初頭のSD550、SD551はこれらの土層上から掘り込まれており、出土土器などから昨年度調査地点のSD249などの続きと思われる。また、SK562は現状で長径約8.5m、短径約4m、深さ約1.5mを測る大型の土坑で、南東隅から浅い溝状遺構が微高地側に伸びていることや時期的、位置的な近接からSD162に関係する井戸、あるいは水溜めなど水利関係の施設であったと思われる。河道流入以降は半ばまで人頭大の基盤、貝を中心とした黑色砂ブロックで埋められており、より河道に平行して杭を多数打ち込み、さらにこの杭列に終めて網代状の編み物を約6.5m×2mの範囲に埋土上に敷いている（第4図）。この杭列は土坑の東側にも15mにわたってのびており、護岸的な性格のものと思われる。SK562の編み物は植物の茎を5～6本単位で編んだもので、土坑の性格に関わる構造物か河道流入後の護岸的なものか意見が分かれる所ではあるが、東側の微高地斜面に直交する浅い溝状遺構（SD557）においても杭列に近接して同様の編み物が検出されており、護岸的性格が強いものと思われる。この編み物も貝層形成以前には、やはりブロック状の土で埋められている。

河道はこれまでの調査では河道1、河道3と呼び、別の河道と考えていたが、今回の調査で大きく湾曲して流れる同一の河道であることが判明した。河道は中期中葉に先述の谷状の後背湿地に流入し、調査区西側に砂州を形成しながら流れるが、流路が変わるとともに微高地2個からの廃棄物とともに有機物層、流土などにより比較的短期間に埋没している。埋没過程の土層からは多量の土器、石器、木製品、動物骨などが出土したほか、河道埋土の下層では調査区のはば中央、南側斜面に貝塚を検出した。貝塚は川が流れている間に南側斜面から、河道西側に形成されつつあった砂州の端部に沿って約15×15mの範囲に形成され始め、川が流れなくなった後も河道の埋没とともに堆積を続けていた。貝はヤマトシジミが大半を占めており、ハイガイ、カキ、ウミニナ類、カワニナ類、オオタニシ、マツカサガイ類、アカニシ、テングニシ、サザエなどが含まれている。

河道埋没以降の遺構としては調査区南西部に3～4基の土壙墓及び埋葬人骨を検出している（第5図）。内2基は屈葬状態の成人女性（5号、9号人骨）、1基は屈葬状態の10歳未満の子供（6号人骨）、掘り方を



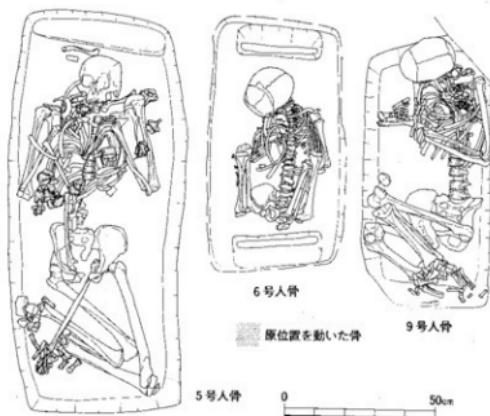
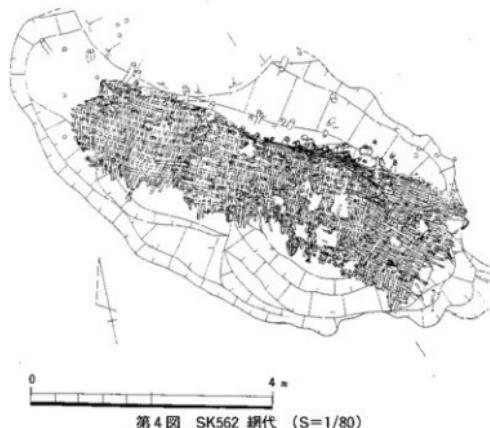
第3図 検出構造 (S=1/500)

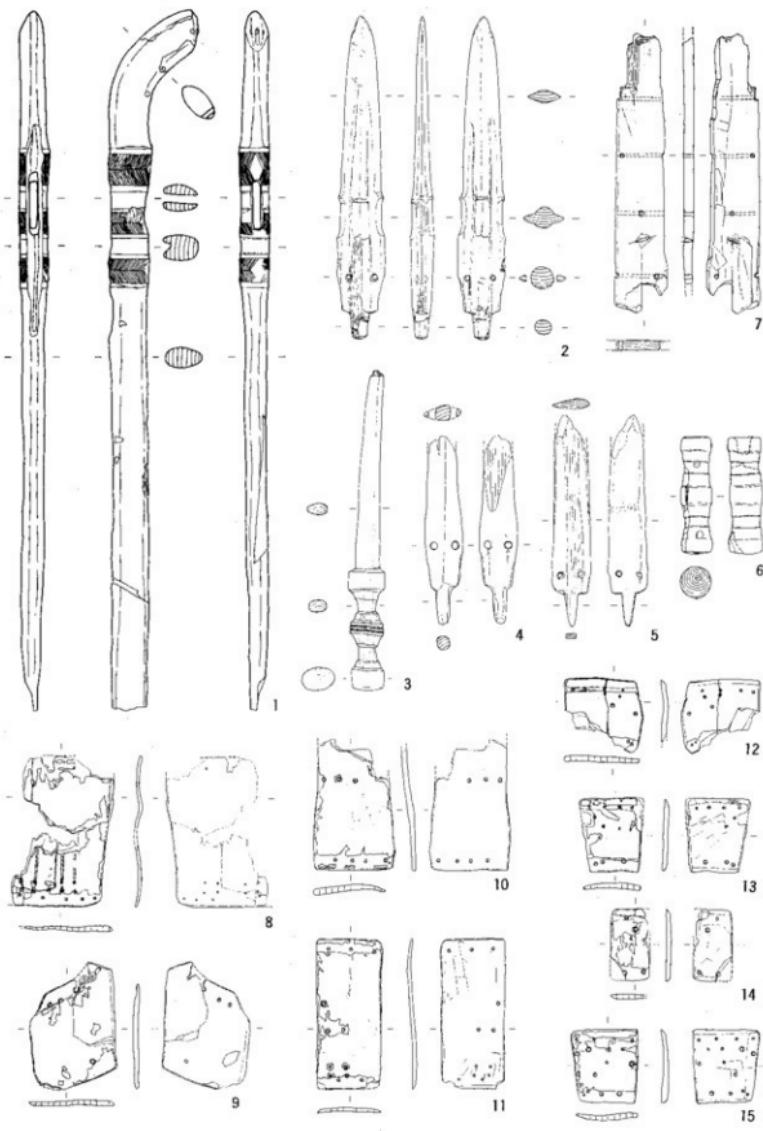
確認できなかったが脛腓状態にある乳児(10号人骨)を検出している。いずれも良好な保存状態で副葬品等は伴っていない。ほかに河道埋土上層に散乱した状態で男性1(7号人骨)、不明1(8号人骨)が出土した。土器等を伴っていないため時期を特定することは困難だが、弥生中期後半から後期に位置付けられる可能性が高い。また5号、9号人骨は上顎犬歯に抜歯が認められ、埋葬においては5号人骨が頸椎、腰椎など、9号人骨が頸椎とその上になっていたとみられる左胸の肋骨などが動かされており、昨年度の2号、3号人骨と同様に何らかの儀礼的行為と思われる。

出土遺物 当調査地点においても河道埋土及び河道流入以前の遺構、包含層から弥生前期～中期の遺物が大量に出土した。土器、石器、木製品のほか骨角器、貝製品、玉製品、鉄器など材質も種類も豊富なことが注目される。

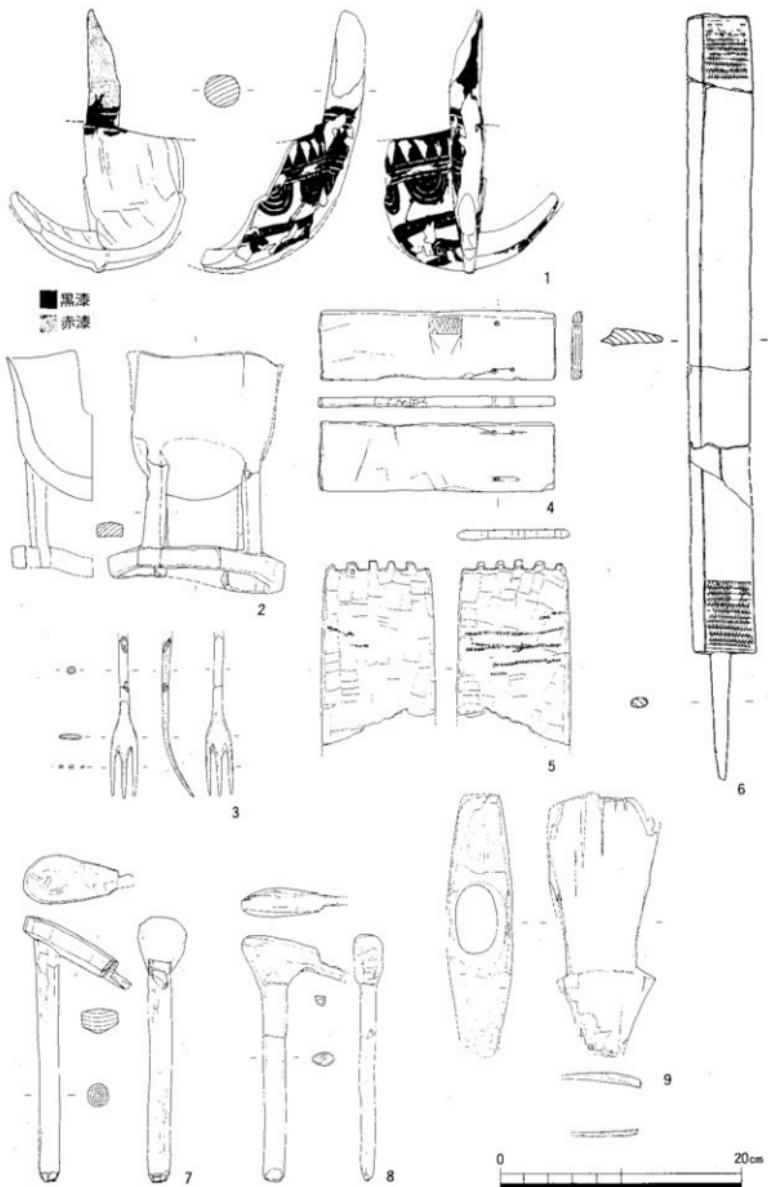
第6図は河道出土の木製品のうち武器・武具類、武器形を中心あげた。戈の柄(1)は黒漆を塗布し、戈を装着する部分に楕円紋を彫刻しており、その上の湾曲した部分には房飾りをつけたと思われる小孔が穿けられている。戈を革紐などで縛ったと思われる痕跡が6条認められ、戈形の木製品が装着されていたものと思われる。銅劍形木製品は極めて精巧なもの(2)、簡単な表現のもの(4・5)が出土している。刀形木製品(3)は把も一体で表現しているもので、この把の部分が以前に出土し石突形とした木製品、今回出土した同様の構造をもつ木製品(6)と形態的に類似しており、これらの木製品も剣あるいは刀の把である可能性が高い。7は石鎚の先端が突き刺さった状態の盾であり、当時の実戦の様子を伝えるものとして興味深い。また組合式木製甲の甲札(8～15)は新たに24枚程度が集中して出土したものである。それぞれの甲札の形態も多様で予想以上に複雑な構造の甲であったと思われる。

第7図では河道出土の木製品をあげた。1は彩紋の縦杓子である。黒漆地に赤漆で紋様が施されるが、赤漆を広く塗布することで地の黒漆を紋様的に浮き立たせている。2は脚付(4脚)容器。3は食器としての「フォーク」とみる意見と、簪・櫛とみる意見がある。フォークとしては類例がなく、他の食器類、特に匙と材、表現などが異なるといった問題が、簪・櫛としては「歯」が短い、簪の飾り部分とするなら先端を欠いているなどの問題がありどちらも決め手にかける。4の板材には建物様の線刻が描かれている。建物・かすみ網等様々な意見があるが、高床式建物とすれば1間×1間の小規模なもので、柱の構造も内側にむけてつかえ棒のような表現があり稻の種類囲みのようなものかもしれない。この板材は加工は比較的丁寧で結合用の紐孔と思われる小孔があり、箱や琴の部材の可能性がある。5は琴と考えられる。突起は5、突起の





第6図 出土木製品 (S=1/4)



第7図 出土木製品 (S=1/4)

谷部か内側の4突起に弦を張った4弦琴と思われる。表面に多数の細線と横状のものでつけた貫通しない小孔が数列にわたってついている。6は織機の経(布)巻具と考えられる。7・8は細部加工用とみられる小型の斧膝柄。9は太型蛤刃石斧の直柄である。これは弥生前期末に位置付けられるSD550からの出土である。

第8図は骨角器、石器、鉄器である。1は骨角製の簪。2は抉入柱状片刃石斧。3・4は小型の石斧類で、第7図7・8のような小型の斧膝柄に対応するものと思われる。5は小型の鑿頭状鉄製品、6は板状鉄斧と思われる。

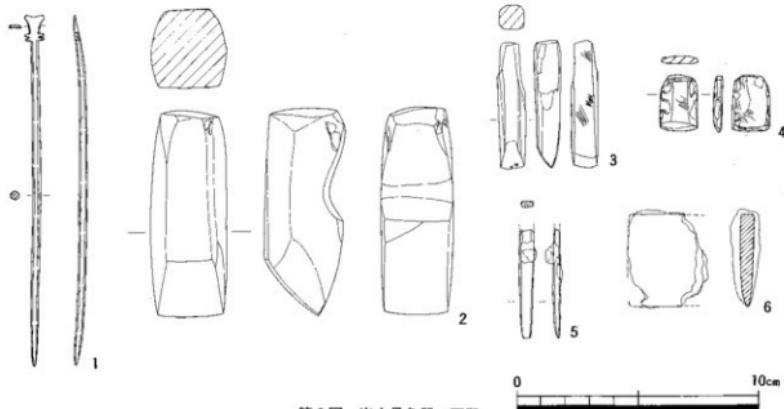
出土遺物には他に、骨角製の無孔針・有孔針、結合式釣針、碧玉製の管玉、翡翠製勾玉、貝製の小玉・垂飾、貝輪などがある。

まとめ 南方蓮田調査区の調査は今回の調査で終了した。当調査区は南方遺跡の縁辺部にあたり、遺跡の消長にまで言及することは難しいが、調査区の景観を弥生時代を中心に、周辺の調査成果も含め追うことで一応のまとめとする。なお、整理の進行に伴い若干の修正も有り得ることをあらかじめ断っておきたい。

遺跡形成以前の調査区部分は微高地2の縁辺とその後背湿地という景観であった。「微高地1」や調査区西部で基盤となっている明黄白色粘土シルト中およびその土壤化した黒色粘土にはアシ・ヨシなどと思われる植物の茎が含まれている。その下層、海拔10~20cmから下は灰色粗砂層になっている。

遺跡の形成は弥生前期中葉からはじまる。微高地2の調査区南端に一部この時期の溝を検出している以外は遺構は検出されていない。また後背湿地部分に微高地2側から土器を含む砂質シルトが流入する。前期末から中期前葉にはこの堆積を切って溝(SD162、SD249、SD550など)が掘削されるほか、後背湿地部分に貯蔵穴が設けられる。

中期中葉以後背湿地部分に河道1が流入、調査区西端部分に砂州を形成する。しかし程なく流れをかえるようで、短期間のうちに微高地2側からの流土、土器・木器・食べ滓・桟敷などの廃棄物などで埋め低湿地の状態となる。微高地2の遺構群も多くはこの時期にあたる可能性が高い。中期後葉から末には河道2が調査区東端に流入する。土壤墓、埋葬人骨も多くはこの時期のものが多いと思われる。ただし、河道埋土中と思われる1号人骨や河道埋土上層に散乱していた7・8号人骨など中期中葉以前に逆上るものも存在するほか、国道53号電線地中化工事に伴って確認された埋葬には前期に逆上の可能性のあるもの、後期の土器棺墓も含まれ、この一帯が南方遺跡の縮小する時期を中心に長期にわたって墓域的に機能していたようである。いずれにしても中期後葉には、土壤墓以外の遺構は河道埋土を切る掘立柱建物、貯蔵穴が若干存在するほかは少なく、後期には井戸が1基確認されている他は土器の出土もほとんどない状況である。こうした傾向は南方遺跡全体に共通する状況のようであるが、この中期後葉から後期の間南方遺跡から500m内外の距離にある津島遺跡、上伊福九ノ坪遺跡などでは土器の出土量も多く、遺構も濃密な展開をみせており、集落の中心がそうした遺跡に移っていたものと思われる。



第8図 出土骨角器・石器

みでむかひばち
三手向原（処分場）遺跡

所在地 岡山市三手字向原

調査期間 930920～950930

調査原因 不燃ごみ最終処分場建設

調査面積 10,600m²

時代 古墳時代中期～鎌倉時代

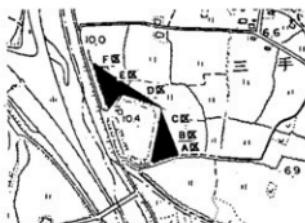
担当者 草原 孝典・河田 健司

遺跡の概要 今年度の調査区は、調査地の北半にあたるD、E、F区である。試掘調査の結果によると、D区北半からF区にかけて包含層が認められており、A、B、C区で検出された微高地とは別の微高地が存在する可能性が推定された。東側に隣接する山陽自動車道建設のための発掘調査において、中世の庇付建物や、墓群が検出されており、当調査区にもそれらに関係する遺構が広がっていることが予想された。

調査の概要 調査区北半にある微高地は、D区北半から遺構の形成がはじまり、F区南半で微高地が東側に大きく曲りながら低位部になる。東側に隣接する山陽自動車道建設の際の調査では、この微高地の東半部の様相を明らかにしており、今回の調査区と合わせると、1つの微高地上に形成された中世集落のはば全体が調査されたことになる。またこの集落から出土する遺物は、13世紀後半のものが大半で、検出された掘立柱建物や、溝、土壙などに共通した方向性が認められることから、比較的の存続幅の短い集落であったと考えられる。

主な遺構としては、2間×3間、もしくは2間×2間の小規模な掘立柱建物が10数棟と、長方形の平面プランをした土壙と溝がある。この他、墓がいくつか検出されているが、小判形の平面プランの土壙を掘って埋葬したもののほかに、上面に石を積んだ積石塚状のものや、盛り土をした埴丘墓状のものがある。埴丘墓状のものは全て盛り土で築かれており、一辺が1.6m程の方形で、斜面に拳大の河原石が葺かれている。埴丘下にある墓壙には、木棺を用いた痕跡などは認められなかったが、底が平坦であることから箱状の木棺が存在している可能性はある。

特異な遺構と遺物については、土師器を焼成したと考えられる窯状遺構と、それに用いられた窯道具と考えられる土製品がある(第2図)。付近から焼け歪んだ鍋の破片も出土しており、この窯で焼成されていたことが推定される。窯状遺構は、地面を径約1mの円形に掘りくぼめ、上部は粘土で円筒状に立ちあげ、南側に焼成部と溝を付属させている。この窯状遺構は、出土した土器から、周辺の掘立柱建物などの時期とほぼ同じであり、集落の一角で土師器の生産がおこなわれたことを示している。県下において発掘調査で明らかとなった土師器焼成窯は2例あるが、それらは一般的な集落地から離れた丘陵部に位置しており、今回の窯状遺構とは異なる立地をしている。中世における土師器生産の多様性を示す一例と考えられる。



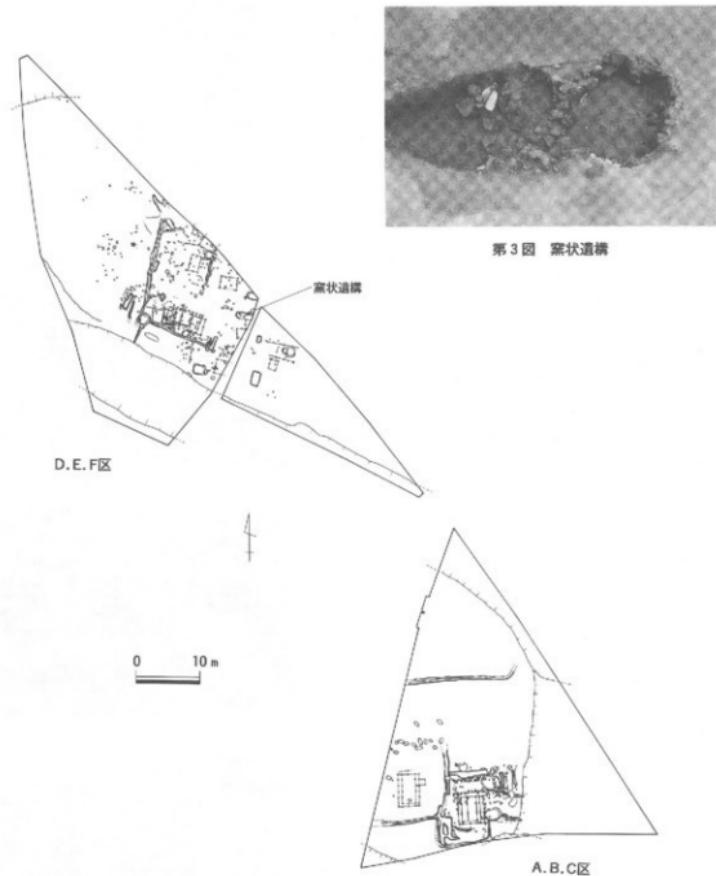
第1図 調査地点



第2図 窯道具実測図

北半の調査区では、南半の調査区で検出されたような古墳時代の遺構や遺物は検出されなかった。より上流部に相当することから、中世以前は集落地としての安定性が低かったためと思われる。

まとめ 今回の調査では、存続幅が短いもののほぼ中世集落の全容がとらえられたことと、土師器の焼成に関わる遺構と遺物を検出することができた。当時の集落構造や土器の生産形態を分析する貴重な資料になるものと思われる。



第4図 中世遺構全体図

吉備津田淵後（鯉山小）遺跡

所在地 岡山市吉備津1708-6

調査期間 941011～950616

調査原因 運動場拡張

調査面積 1,265m²

時代 古墳時代～江戸時代

担当者 神谷 正義・高橋 伸二

遺跡の概要 吉備津田淵後遺跡は備中國一宮である吉備津神社の西方に位置する。当遺跡は鯉山小学校の運動場拡張に伴って平成6年度から調査を行い、これまでの調査で古墳時代の祭祀遺構をはじめ中世を中心として平安時代から近世にかけての遺構が確認されている。

調査の概要 調査は昨年にひきつづき運動場拡張とともに移設される道路と用水路部分を対象に行った。

調査区は東側よりI区、II区、III区と設定し、今年度の調査分として西にのびるIV区と北側に別れるV区を設定した。

検出された遺構は中世の柱穴群を中心に溝、土坑、土壙墓などがあり、これらの密度は西に行くほど減少する傾向にある。

今年度の調査では、平安時代以前の遺物は少量検出されたものの明確な遺構は検出されなかった。

出土遺物は、在地系の陶器類や土師質椀・皿類のはか、亀山焼の瓦・甕類、綠釉陶器、魚住焼、青磁・白磁類などのほか瓦や石造物なども出土しており、一般的な集落とは様相が異なる。

瓦類は平安時代末から中世にかけてのものが多数出土し、梵字瓦なども検出された。

石造物は石灰岩製の宝篋印塔の塔身と基礎、豈島石製の五輪塔の水輪である。いずれも中世末期の製作であろうが、近世初頭に溝に廃棄されたものである。

まとめ 今年度までの調査で当調査地点においては中世を中心として平安時代後半から近世にいたる遺構を確認したが現状では明確に証明できる遺構は確認できなかったものの平安時代後半から中世にかけての瓦類の出土や近世の溝に廃棄された石造物等の存在などから今回の調査区近辺に寺院が存在していた可能性が考えられる。



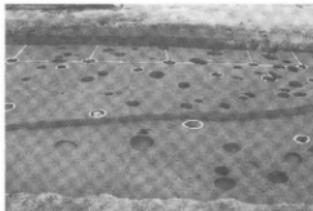
第1図 調査地点



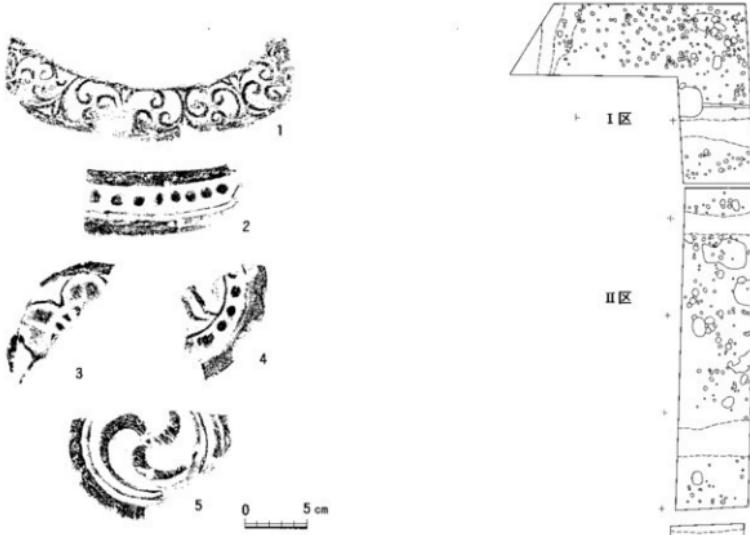
第2図 SK3050



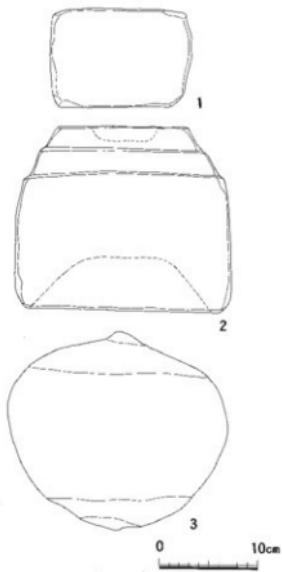
第3図 SD3006



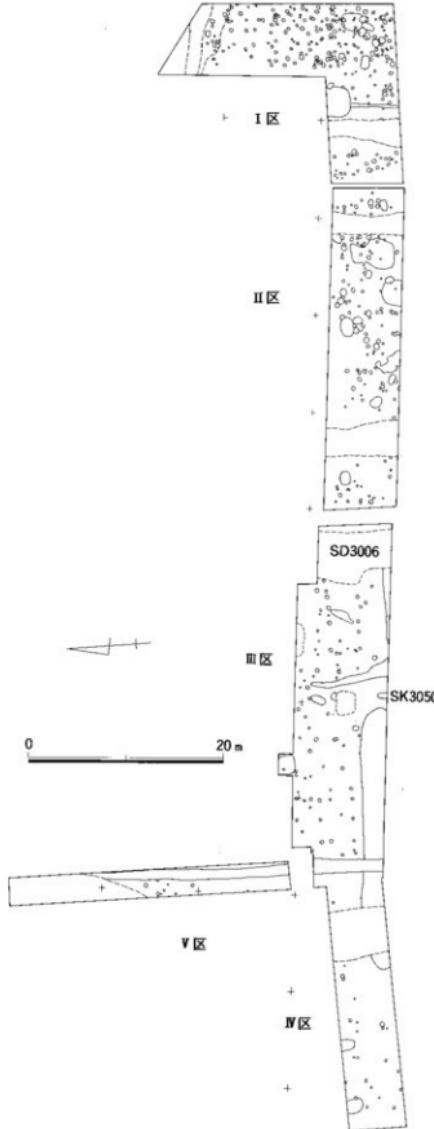
第4図 柱穴群



第5図 出土瓦拓影



第6図 SD3006出土石造物



第7圖 中世遺構面

せいそほしもと
西祖橋本（御休小学校）遺跡

所在地 岡山市西祖179

調査期間 951001～960331

調査原因 小学校校舎建設

調査面積 600m²

時代 弥生時代中期～江戸時代

担当者 高橋伸二・河田健司

遺跡の概要　当調査地点は、浦間茶臼山古墳の南西部約0.5kmの地点にあり、御休小学校の校舎建て替えに伴い平成7年10月より平成8年の3月まで発掘調査を行った。調査面積は、校舎部分約500m²と、浄化槽部分約100m²の合計600m²である。調査に先立って行われた試掘調査では中世の包含層が確認され、また1990年に行われた当調査区の北隣にあたる御休幼稚園の園舎建て替え工事に伴う発掘調査では中世末期の集落および、近世初頭の水田が確認されたため、当地点においても同じような様相を呈する遺跡の存在が予想された。



第1図 調査地点

調査の概要　当調査地点はかつて木造校舎が建っていた地点であるため造成土を取り除き、旧水田耕土から下は手掘りで行った。

近世初頭の水田面は造成土直下の現水田耕土の下に、2～3層にわたって検出されている。この水田は、後に述べる中世末期の集落が形成された微高地を削平してつくられており、水田の区画を表していると思われる段が検出された。またこの水田に伴う遺構としては、区画に平行する溝、土壙が検出されている。



第2図 中世遺構面

中世末期の集落は、近世初頭の水田耕土を除去した時点で検出された。この遺構面は遺物の時期等からみて、90年度に調査を行った部分の中世面とつながるものであると思われる。この時期の遺構は多数の柱穴およびいくつかの土壙、井戸が3基、鍛冶炉が1基、南北に流れる溝である（第5図）。柱穴には、根石や添石をもつものがかなりあり、特に調査区西側に多く認められる。また、柱穴のなかには、建物が復元できるものも存在する。井戸は石組みのものが2基と素掘りのものが1基あり、特に調査区西北部にあるSE-1（第6図）は石組みの井戸枠の下に木製の枠を置き、一番下には備前焼の底を抜いた大甕を置いたかなり念入りな作りのものである（第4図）。鍛冶炉は調査区西北端に位置し、下部構造と思われる長方形の土壙の埋土中から、多くの鍛冶滓が出土した。しかし上部構造は削平されたと考えられ残っていないかった。



第3図 弥生時代住居跡

出土遺物から見て、これらの遺構には、16世紀中葉と16世紀後半の2時期のものがあると考えられる。

弥生時代の遺構面は中世末期と同一面あるいは数十cm下げた段階で検出された。遺構は調査区の西端に住居跡が2軒検出され（第3図）、また調査区全域から土壙が検出されている。土壙の密度は調査区東端および西端に高く中央



第4図 SE-1廻出土状況

部では低い。これは調査区中央部が微高地の頂上であるため、後世の削平を真っ先に受けたためと考えられる。

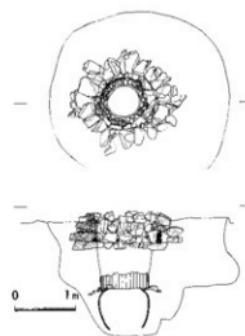
住居跡は円形のものと方形のものが各1軒ずつあり（第7図）、出土した土器から円形のものは弥生時代中期末、方形のものは後期前半と思われ、この集落は少なくとも2時期にわたって存続していたことがうかがえる。

弥生時代の遺構面は、後世の削平によるものでもあろうがあまり多くはなく、遺物も少ない。これは弥生中後期の集落の末端を調査したためと考えられ、西北端に住居跡が重なって存在することから、西北に延びる集落の存在が予想される。

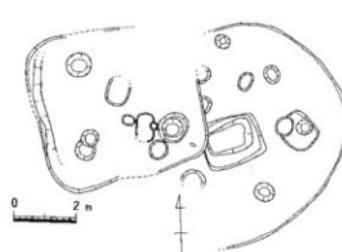
まとめ 今回の調査では弥生時代中後期、中世末期、近世初頭の遺構を確認することができた。弥生時代から中世に至るまでの間は、古墳時代の須恵器が若干出土しているが明確な遺構は確認できなかった。このため中世末期の集落形成時大規模な削平がおこなわれたことが推測される。さらに近世初頭に水田として開発され、現在のような景観を形成したと考えられる。



第5図 中世遺構平面図



第6図 SE-1 平面・断面図



第7図 弥生時代住居跡平面図

おかやまじょうせきほんまるなか だん
岡山城跡本丸中の段 第Ⅳ次

所 在 地 岡山市丸の内

調査原因 史跡整備(国指定史跡岡山城跡保存整備事業)

時 代 中世・近世

調査期間 95.11.06～96.03.31

調査面積 1,000m²

担当者 乗岡 実

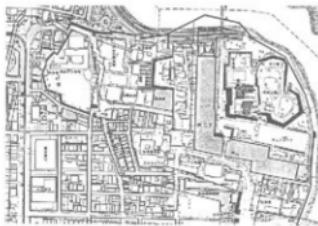
遺跡の概要 近世岡山城は、旭川下流の平野中央部に位置する領国経営上の中枢城郭で、その端は中世城郭に始まる。旭川の西岸に本丸を置き、その西から南には堀が幾重にも廻って、二の丸・三の曲輪、また城下町が展開する。明治以後、堀の多くは埋立られ、二の丸以下は現在の市街地に埋没したが、本丸は学校用地を経て、戦後は鳥城公園として市民に親しまれてきた。1987年に至ってこの本丸を核に主要部が国史跡に指定されたのを受け、当面の史跡整備対象地を本丸の中の段に絞り込み、その基礎データを得るために、1992年度から国庫補助事業として発掘調査を実施してきた。第Ⅳ次調査は、その最終年度分で、中の段中央のコンクリート建物の撤去跡を主な対象地とした。

調査の概要 前年度までと同じように検出遺構は、上層遺構と下層遺構に大別される。

上層遺構は、今みると中の段が完成し、絵図類にも記録を留める岡山藩の藩庁である表書院の時期のもので、第8図のV期に相当し、寛永9(1632)年を上限とする池田忠雄期以降のものである。中の段の北東隅では、小納戸櫓の礎石列を確認した。礎石は高石垣に沿う石墨の内側に「ロ」形に配列され、月見櫓などのV期に建てられた他の櫓と同じく、小納戸櫓も石墨に跨って建つ構造といえる。豊島石のくりぬき式排水溝も伴う。中部の本段高石垣沿いでは、便槽とみられる備前焼の据え臺と便所の上屋を示す小礎石を検出した。さらに中西部では表書院の南西棟、藤ノ間・松ノ間に関相当部の礎石列を良好な状態で検出した。

上層遺構の遺存度の悪さと裏腹に、下層においては、大きな成果があった。現役の西辺高石垣の内側では、新たに埋没高石垣を確認、背後に組み合う低石垣も含めて、その延長を追及し、郭内でも礎石建物や金瓦瓦を含む瓦溜を検出したほか、最下層では土塁を伴う巨石使用の低石垣を確認した。なによりは、下層を比較的広範囲にわたって調査できた事から、第Ⅱ次調査來の複雑な遺構群に対し、層位、遺構の延長や構造などが一層明確となり、中の段全体の変遷過程がおおむね判明したことである。

中の段の変遷過程 なお未確定の要素は残るが、第8図の様に大別5期に整理できる。I期は、本来ある自然丘に若干の造成土を伴って郭の縁に低石垣を伴う土塁を廻らす。土塁の外には高石垣はない。土塁や低石垣は改築があり、最新の低石垣には2m近い自然石を含む。郭内には礎



第1図 調査地点



第2図 小納戸櫓



第3図 土塁内側の低石垣（I期）



第4図 埋没高石垣（II期）

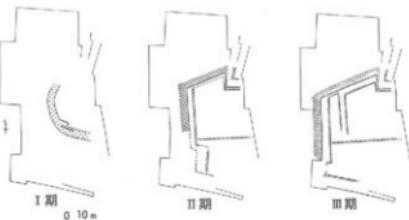
石建物があり瓦も伴うが少量である。この中世的構造は、天正元（1573）年に入城したという宇喜多直家と、その子の秀家の若年期に相当するとみられるが、この期は西方の石山に城があったと伝えられ、その限りでは、検出郭はその出丸という事になる。ただ「旧本丸」に想定できる郭の規模や高度は、検出郭と大差なく、ここでは天守閣復元時に確認した地山の高さなどから、検出郭より5mは高い位置にも別の郭が想定できるから、むしろ「石山期」の本丸位置や全体構造について再考を求めるべきともいえよう。

II期は高石垣や多くの瓦葺建物など、近世城郭の体裁を持つ最古の段階で、桐文の軒丸と蕨手状文で特殊な形態の軒平瓦という天守閣に共通のものを含めた金箔瓦も伴う事から、天正19（1591）年頃に開始され慶長2（1597）年に完成したという宇喜多秀家の大改造によるとみられる。郭は今の半分程度の面積でしかなく、高石垣は野面石を用い、折は鈍角が基本で、背後に石塁を画す低石垣が組み合う。北東部には第II・III次で確認した裏門がある。郭内では低石垣を隔てて北半部が一段高く礎石建物群が建つ。

III期は、北辺石垣の旧角以西をそのまま維ぎ足し、他辺は一部を除きII期高石垣の石材を抜いてから埋め込み、郭を拡幅する。新設の高石垣背後にはやはり内石垣が組む。第III次調査の時、南西隅の大納戸櫓の櫓台内で確認された低石垣もこれに相当する。郭内北側ではII期高石垣と内石垣の頂部がなお露出し、石塁上に建物がありこれを継続した可能性、また一部建物に金箔瓦を掲げた形跡がある。

IV期は、III期に対し郭の大きな拡張はないが、西辺と南辺の内石垣を廻し外寄りに新造、大納戸櫓部とその東に統く現役高石垣もこの期に積まれたとみられるほか、郭内部に造成土を入れ相当な地上げを行っている。

III期とIV期のいずれかが大納戸櫓建設伝承を持つ小早川秀秋期とみられるが、考古学的には微妙で直ちには決し難い。III期とすれば、彼は確かに近位置で相当な建築は行ったが、自動的に池田期となるIV期に建った大納戸櫓そのものではない。秀秋は金箔瓦を含め秀家の構造をかなり流用使用した事にもなる。IV期とすれば、大納戸櫓伝承通りの秀秋で良いが、沼城からの移築伝承とIII期に想定できる先行櫓との関係が問題になる。また秀家自身がIII期として関ヶ原直前に急速大改造を挙行した事になる。



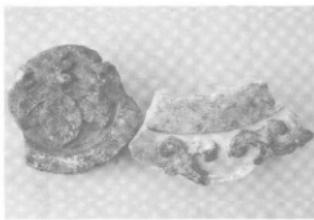
第8図 中の段の変遷



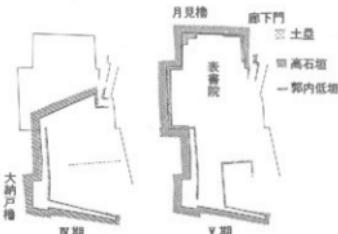
第5図 埋没高石垣(II期の角、III期付加)

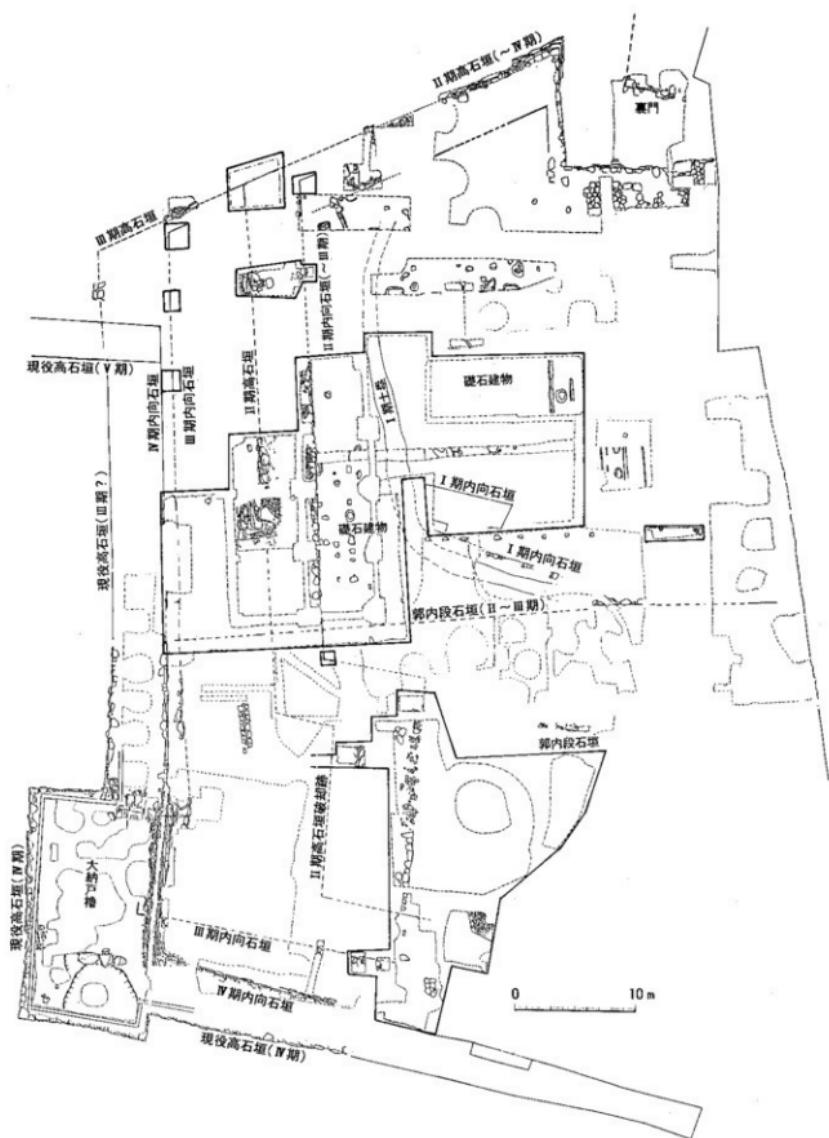


第6図 高石垣背後の内向石垣(II期)



第7図 天守閣と共に通の金箔瓦(II期)





第9図 下層遺構全体図 太線内が95年度分調査区

おまち 雄町 遺跡

所在地 岡山市雄町350-1-8ほか三箇
調査原因 都市公園建設
時 代 弥生時代ほか

調査期間 950529~950605
調査面積 30m²
担当者 乗岡 実

遺跡の概要 雄町遺跡は旭東平野の中央部、純然たる沖積地に位置する。山陽新幹線の建設に伴う調査以降は、まとまった発掘は無かったが、ここ数年の小規模な発掘や立ち会い確認で、僅かづつであるが、実態が明らかになりつつある。遺跡は、いくつかの微高地や旧河道を含んでおり、大局的には縄文時代から弥生時代・古墳時代を経て脈々と続く拠点的な大集落といえる。一方、細かくは時期ごとに盛衰や重心地の移動があるようで、地点によって検出遺構の内容や時期に偏差がある。

調査の概要 今回の調査地点は、公園に附属する便所の浄化槽設置予定部で、微高地の半ばに相当する。ここは、かつての銅鐸出土地点の東方約80mの位置である。

一帯は元来の微高地上面が相当高く、居住地としては条件が良かったようであるが、逆に中世の水田造成による削平が著しく、水田層の下は直ちに黄褐色の微高地基盤土となる。微高地基盤土上面で検出できた遺構は、たいてい弥生時代後期前半のものであるが、上の水田層からは土師器・須恵器・白磁片なども出土し、既に損なわれた時期の遺跡の内容と密度の高さを彷彿させる。

検出遺構の多くは、意味不明の土壤である。削平を免れた底付近が30cmに充たない深さで残っている程度で、土器などの共伴遺物もまとまっていない。しかし、柱穴とみられるものも散見できるほか、発掘区中央の大形の遺構は注目される。

長辺3.6m、短辺2.0mの長方形で浅い土壌内に、段掘り状に、長辺1.9m、短辺1.3m、深さ0.9mの長方形の土壙と、長辺1.6m、短辺1.3m、深さ0.9mの楕円形の土壙が並んで検出された。配置や埋土の状況から三者は元来一連であったとみられ、周囲に柱穴状の掘り込みが合計6~8基、軸を合わせて並ぶ事から、そうした上屋を伴っていた可能性もある。深い長方形土壙部の埋土最上面には厚さ1~3cmの炭化米層が敷きつめたように広がり、一部は焼土と混在する。この上方外縁部、もはや浅い長方形土壙内といえる位置では、高坏や壺など復元可能な状態の土器が数個体出土した。時期は、弥生時代後期はじめ頃。この遺構の機能は判然としないが、あるいは貯蔵、または祭祀に関わるものであろうか。

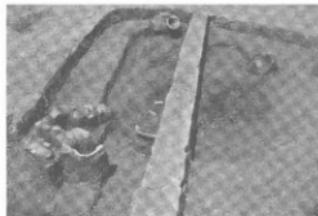
実働5日の極短期の調査であったが、雄町遺跡の一端を明らかにすることことができた。また、地域の子供達を中心としたごく小規模な見学会も持て、一定の成果をあげたといえよう。



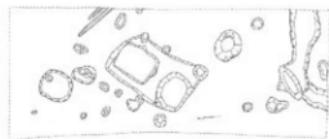
第1図 調査地点



第2図 調査区全景



第3図 中央部土壙



第4図 遺構平面図

庚申山東遺跡

所在地 岡山市新庄上字岩崎232

調査原因 自動車、携帯電話基地局の建設
時 代 弥生時代～戦国時代

調査期間 950925～950926

調査面積 137m²

担当者 草原 孝典

遺跡の概要 庚申山は、足守川中流の西岸に位置し、仕手倉山山塊から北へのびる丘陵群である三須丘陵の西端にあたる。標高は74.2mで、比高が30～40m前後のなだらかな低丘陵群からなる三須丘陵においては、最も高い部類に入る。庚申山上における遺跡の状況は、山頂付近から東方向にのびる尾根上に弥生土器が散布しており、そのなかには特殊壺も含まれている。庚申山の北側には、銅鐸を出土した弥生時代後期の集落遺跡の高塚遺跡が存在する。その南に存在する津寺遺跡では、隣接する丘陵上に同時期の墓が多數認められることから、庚申山も同じように高塚遺跡の墓域であった可能性がある。また、天正10年（1582年）に織田方の武将・羽柴秀吉が、備前の守喜多勢を先鋒として備前・備中の国境に進出し、備中高松城をはさんで毛利方と対峙したいわゆる「高松城水攻め」の際に、毛利方の有力な武将である吉川元春が、この庚申山（『中国兵乱記』には岩崎山と呼ばれている）に陣地（陣城）を設けている。現地形からでは、城郭を想定するような部分は見当たらぬが、この時期の遺構が埋没している可能性もある。

調査の概要 調査は鉄塔により削平を受ける部分に限定したが、露岩が多いため多少調査区の平面形はいびつな形となった。調査区は、山頂部でも露岩が比較的多く認められ、しかもなだらかな斜面であることから表土の流失が顕著で、遺構の形成が稀薄か、もしくはほとんど残存していない地点と思われた。ただ、調査区北側にある山麓部から山頂部へ上の山道斜面の壁面では、幅約150cm、深さ約100cmの断面V字形の遺構が確認されている。埋土には弥生土器の破片が含まれており、この遺構が調査区内へのびてくる可能性が考えられた（第3図）。以上の現況をふまえて調査をおこなった。

約10cmの深さの木根を中心とした表土を除去後精査をおこなった結果、花崗岩質の基盤層上面で埋土が暗茶褐色微砂のピットと浅い溝を検出した。ピットは径約30cmで、深さ約10～15cmのものが3つ認められた。調査区の範囲が限定されていることから、この3つのピットがならんで、建物や柵列の一部になるかどうかについては不明である。遺物は全く出土せず、時期についてもよくわからない。

溝は、調査区中央付近で検出した。幅は最も広いところで約100cm、東側にいくにしたがい狭くなっている。検出面からの深さは約10cmで、底面は東側にむかってゆるやかに傾斜し調査区外へ出る。この溝と、山道壁面に露出する断面V字形の遺構との関係を確認するため、調査区外ではあるが可能な範囲で断面V字形の遺構の検出もおこなった。その結果、断面V字形の遺構は、山頂をめぐるV字溝で、調査区の溝はそれに流入する小規模な溝の1つと考えられる。遺物は全く出土しなかったため、時期についてはよくわからない。

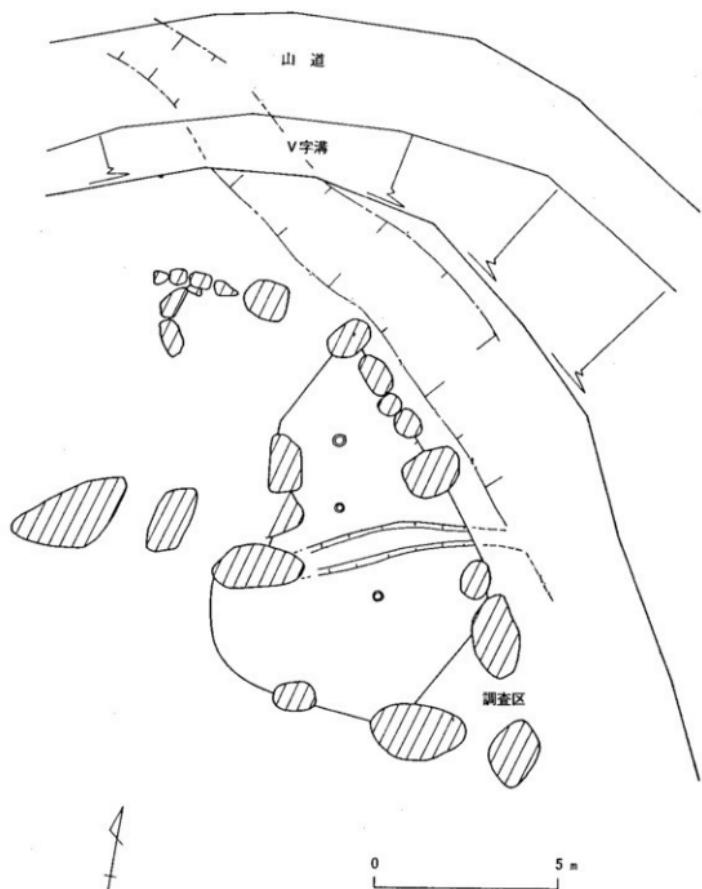


第1図 調査地点



第2図 調査地点全景

まとめ 今回の調査で検出した遺構については、遺物が全く伴っておらず、時期については明確にしがたい。しかし、山頂をめぐっていると推定されるV字溝と一体をなす遺構であることが確認された。V字溝の性格については、埋土から弥生土器が出土しているものの、その形態や、当地が戦国期の陣地に使用された点から、城郭の一部と考えるのが妥当と思われる。そうすると、今回検出された遺構も、城郭の一部であった可能性が高いと思われる。



第3図 周辺地形及びV字溝平面図
(斜線は露岩)

ながさか長坂古墳群

所在地 岡山市足守

調査期間 951016~951130

調査原因 土砂採取

調査面積 1244.96m²

時代 古墳時代前期

担当者 草原 孝典

遺跡の概要 当古墳群は、戦国期の城郭である冠山城の東側に位置し、標高180mの尾根上に築かれている。周辺の谷部には、横穴式石室を内部主体とした古墳が多数築かれており、群集墳の様相を呈する。前、中期、もしくは墳丘墓と思われるものはあまり築かれておらず、それらはむしろ南側の標高50~100m程のやや低い平野部に面した丘陵部に集中して築かれている。したがって、当古墳群の立地は、周辺にあるそれらの古墳とはやや異なっていたものといえよう。しかしながら、当時の農業生産の基盤となるのは、足守川周辺の低位部ではなく、丘陵部の扇状地部が主体であったと思われ、そうすると足守地域周辺において最も大きな扇状地が当古墳群の西側に存在し、そこには足守地域で最も大きな集落遺跡の一つと推定される南坂遺跡もあり、この古墳群のバックグラウンドについては想定が可能である。

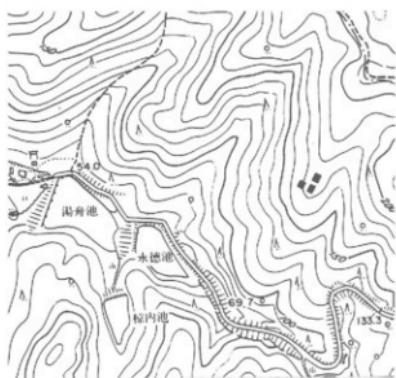
調査の概要 当古墳群は、東側からのびる尾根がなんだらかとなり馬背状の地形となる部分に築かれている。東側から1号墳、2号墳、3号墳とし、1号墳から調査をおこなった。

1号墳 調査前に、墳頂部で器台の破片と思われるものを1点採集した。しかし、この土器が当墳に伴うものか、もしくは墳丘下にある他の遺構に伴うものはわからなかった。墳丘は長さ約7m、幅約5mの方形で、盛土で築かれおり、墳丘表面には列石が認められる箇所もある。埋葬施設は3つあり、中心主体は箱式石棺で2体の人骨と鉄剣が1本出土した。石棺内部は赤色顔料が塗布されており、東側には長方形の石を用いた石枕も確認された。

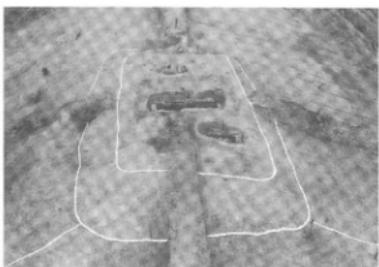
中心主体の北側には軸を同じくする壺棺がある。この壺棺は弥生時代中期末の長頸壺に古墳時代初頭の高杯形部で蓋をし、さらに特殊壺の胴部と弥生時代後期末の壺をかぶせるといった特殊な組み合わせであった。内部には人骨も一部残存していた。中心主体の南側には、軸を同じくする特殊器台棺があり、これは装饰壺の口縁部で両側を塞ぎ、上面は壺や特殊壺の破片で覆っていた。

2号墳 墳丘は地山削り出しで築かれている。長さ約10m、幅約8mの方形で、1号墳との間には幅約3mの溝が掘られており、底部には小型の壺を含む土器が数点出土した。埋葬施設は1つで、南側に偏った位置に箱式石棺が検出された。石棺内部には赤色顔料が塗布されていたが、副葬品はなかった。

3号墳 2号墳の西側斜面に築かれている。墳丘西側は崩落しており全形は不明である。盛土は認められず、埋葬施設は2つで、箱式石棺が並んで検出された。石棺内には人骨が残存しており、いずれも東側に頭を向けていた。

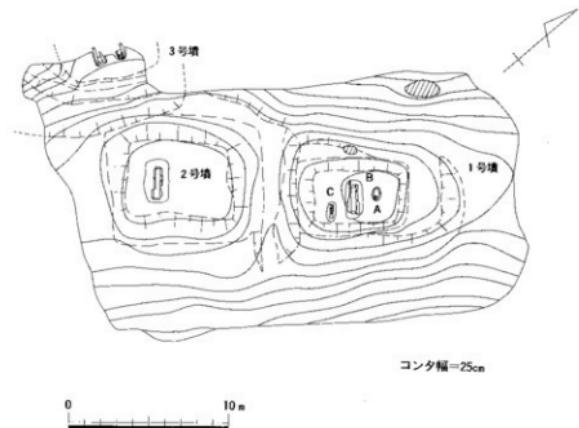


第1図 調査地点

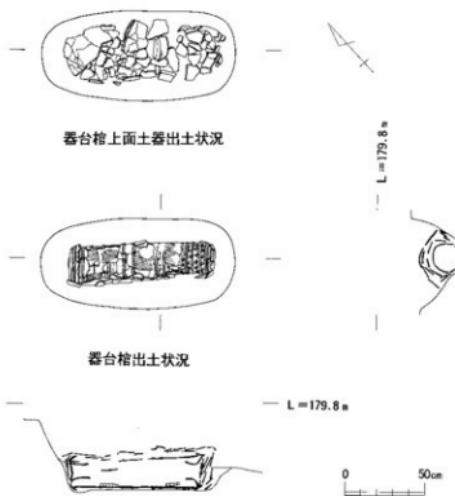


第2図 1号墳全景

まとめ それほど規模の大きくない古墳群ではあるが、埋葬施設に特殊器台や弥生時代中期末の壺棺を用いている点は特筆される。そして、それらの組み合わせには時期的にかなりの差が認められるが、埋葬施設の軸は全て同じであり、それぞれが埋葬された時期についてはあまり隔たりがあるとは思われない。埋葬時に用いた土器に時期差がかなりある点や、特殊器台を棺に転用したことについては、さらに検討していただきたい。



第3図 遺構配置図



第4図 1号墳C埋葬部

津島新野(下水立坑)遺跡

所在地 岡山市津島新野一丁目 調査期間 960122~960124
調査原因 下水道工事(立坑) 調査面積 34.19m²
時代 弥生時代中期~ 担当者 草原 孝典

遺跡の概要 当遺跡は、弥生時代前期初頭の大規模な集落遺跡である津島遺跡の北東に位置する。周辺部の調査の知見から、北東から南西方向に細長くのびる微高地が予想され、当調査地点はこの微高地の南端付近にあたると思われる。

調査の概要 今回の調査では、弥生時代後期の堅穴住居跡や、土壙などが検出された。遺物としては、古墳時代前期の土器片や、古墳時代中期の須恵器の破片も若干出土している(図4)ことから、付近に該期の遺構も存在することが予想される。以下遺構の概略を説明する。
堅穴住居 調査区の東側で検出されたもので、大半は調査区外へ出る。円形の平面プランが推定され、弧状にめぐる壁帶溝が2条あり、少なくとも2度にわたる拡張のあったことがうかがわれる。この住居に確実に伴うかどうかはわからないが、床面から柱穴も1つ確認された。また、調査区西端中央部に焼土が認められ、この付近に火所が存在することが推定される。床面は、北側の方が若干レベルが高くなってしまっており、そのため北側については壁帶溝も残存していなかった。埋土は1層で、土器の小片が若干出土しており(図4)、それらからこの住居跡は弥生時代後期中頃と考えられる。

土壙1 堅穴住居の下部で検出された土壙で、東半は調査区外に出るため全形は不明だが、長径40cm以上の楕円形の平面プランが推定される。検出面からの深さは約30cmで、断面形はU字形を呈する。埋土は1層である。遺物は甕の破片が1点出土しており(図4)、それから弥生時代後期前半の時期が考えられる。

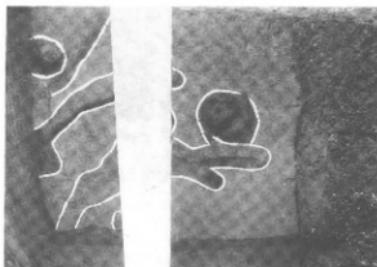
この他、ピットや土壙がいくつか検出されているが、埋土に含まれる土器の小片から、いずれも弥生時代後期の時期幅の中におさまるものと推定される。

水田 土層の断面観察から、調査区の西側に偏る位置に南北方向の畦畔と、調査区中央部で東西方向の畦畔が確認された。これらの畦畔はかなりしっかりしており、中世前半と推定される水田層から近世の水田層にいたるまではほぼ同じ位置に存在していたようである。この畦畔は、当該地周辺の水田面に残存する条理地割の一部であると思われるが、調査区の面積がかぎられていることもあり、この部分だけでは明確でない。また、この畦畔の存在する水田層と包含層の間に水田層がある。この水田層には畦畔は認められないが、包含層に古墳時代後期の須恵器が含まれることから、該期以降で中世以前の時期の水田層であると推定される。

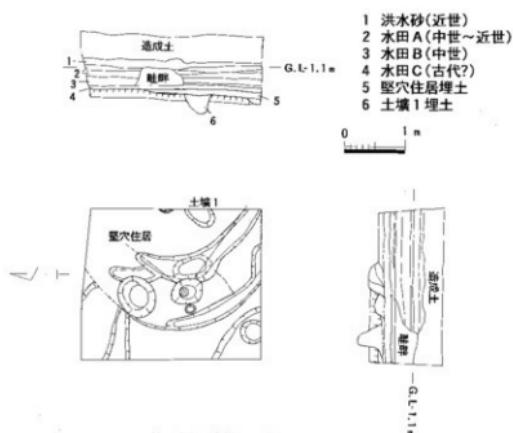
まとめ 今回の調査では、調査区が非常に限定されているにもかかわらず、堅穴住居や土壙などが検出された。かなり遺構密度の高い集落遺跡が調査区周辺には広がっていることが推測される。また、古墳時代後期以降、微高地は水田化されていることも確認することができた。



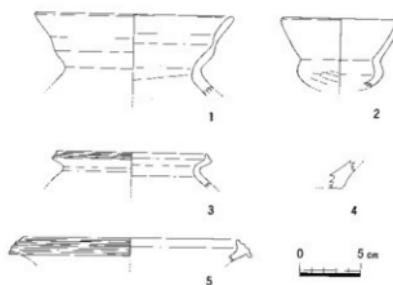
第1図 調査地点



第2図 遺構全景



第3図 遺構平面断面図



1.2 包含層
3.4 竪穴式住居
5 土壌1

第4図 出土遺物

せき 関 遺 跡

所在 地 岡山市関字西畠521-1ほか 6 筆
調査原因 マンション建設
時 代 縄文・弥生・古墳時代ほか

調査期間 950613~951011
調査面積 2,099m²
担当者 乗岡 実

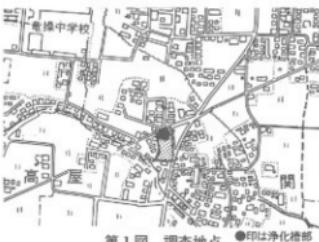
遺跡の概要 旭東平野の中央にある弥生時代を主とする集落跡である。縄文晩期の遺物の存在も知られるが、正式な調査はこれまで無く、内容は未確定である。

調査の概要 工事の工程に合わせて断続的に、建物本体のパイル周囲の坪掘部での土層観察を中心とする調査と、結果として発掘調査の手順に準じた浄化槽部分の面的調査とに、期間や調査方針を分離した。

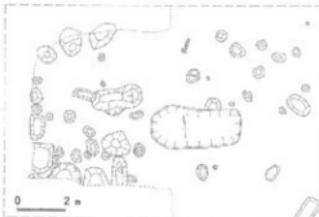
建物本体部分では、工事掘削が遺跡所在層の最下にまで及ばないこともあって、個別遺構については未確定要素が多いが、旧地形は北が高く、弥生時代後期を中心に住居跡や土壙、溝などが高密度で展開するのに対し、用地の南寄り三分之一の一は低く黄褐色の微高地基盤土が途切れる。

浄化槽部分は、調査対象地の最も北寄りにあって、微高地の中心付近に相当する。黄褐色土上面で検出した遺構を、上層遺構とした。これにはその上に堆積する暗灰褐色の遺物包含層に共存する遺構を含んでいる。上層遺構は50基程を確認したが、すべて意味不明の土壙で、確認できた深さも30cm未満のものが多く、年代は弥生時代後期半ばから古墳時代初頭までのものが大半で、古墳時代後期後半のものが少量加わる。先の黄褐色土そのものには縄文土器が含まれていた。掘削と調査の工程が先行した東側調査区では、遺構埋土の同化や調査環境から明確な遺構として認識せなかつたが、西側調査区では上層遺構検出面から最低20cmほど掘り下げた微高地基盤土中の面で下層遺構を把える事ができた。西側調査区の南では、外形が弧を描く深さ約20cmの窪みを2基、その間に土壙1基を確認した。埋土は周囲に対して比較的明瞭に汚れ、多数の土器片を含む。窪みは、形状や焼土を伴う床面から、住居跡の可能性が強い。東側調査区での遺物分布状況を勘案すれば、直径5m程になろう。柱穴は明らかでないが、かすかに壁体溝状の汚れを観察した。これらの北でも焼土面を確認したほか、東側調査区での遺物分布からして、さらに遺構が存在した模様である。下層から出土した縄文土器は破片数約1000点で、出土位置によって微妙な時期差を持ちながらも、総じて縄文晩期の船津原式から谷尻式をつなぐ時期もので、深鉢は貝殻条痕や口縁部の刻みが頗著で、縄に爪形文を施したものも微量含んでいる。小石斧？やサスカイト剣片類も出土した。

南約60mの地点で以前出土した遺物も近似する時期のもので、この時期の関遺跡は相当な広がりを持つことになる。県下他遺跡で近年増加する資料に照らせば、この時期こそ、縄文集落の沖積地進出が本格化する時期といえようか。



第1図 調査地点



第2図 浄化槽部上層遺構



第3図 浄化槽部下層遺構



第4図 浄化槽部出土縄文遺物

発掘調査をしていると意外な物が出てきて驚かされます。岡山空襲の痕跡もその一つです。具体的には焼夷弾の破片が出土したり、その着弾した跡が検出されることです。いやなにおいがあたり一面充满するのですぐわかります。今まで、岡山市の発掘調査だけでも5例確認しています。県の調査部分を含めるともっと多いことでしょう。

わたしは、今まで3例の焼夷弾着弾跡に遭遇しました。遺跡名は原尾島（市道）と大供中道遺跡。そのうちの1例・大供中道遺跡の場合は不発弾でした。市役所のすぐ東側、現在公用車用の立体駐車場が建っている場所です。そこで、鉄製の筒条のものが水田に突き刺さった状態で検出されたのです（写真1）。当時の状況はこうでした。発掘を進めていると、鉄製の半球状の蓋と異様な臭いが漂いました。周辺に黄色い固体物が散在しているのも認められました。掘り進めるにしたがい、異様な臭いが充満し、しばらくすると煙がありました。説が分からず、軍手の上から黄色い固体物に触れたところ、軍手がボッと火を吹き燃えあがつてしまつたことを覚えています。それからは、警察に連絡したり、自衛隊に連絡したりと緊迫した状況が続きました。結局、自衛隊の危険物処理班が来て、処理してもらひ事なきを得ました（写真2・3）。50年近く土中に埋まっていたにも、きっかけがあれば十分力を発揮すると実感しました。不発弾といえども「現役」だったのです。ましてや「戦災体験」を過去のこととして引退させるわけにはいきません。風化させてよいわけはありません。

自衛隊の人の説明では、火薬は「黄磷系」とのことです、空气中では自然発火するのだそうです。また「黄磷」は水をかけたからと言って消える物ではなく、酸素が無い状態あるいは温度が低い状態では休止しているだけで、条件が整えばまた発火することでした。だから、人体に付着した場合、一旦消したのように見えて、実は内部にどんどん食い込んでいきながら組織を破壊してしまうので、直りにくいやけどになるのだと見ています。実際にやっかいな始末に負えない代物なのです。

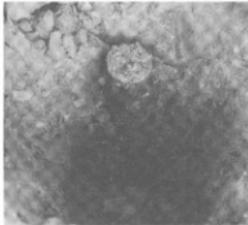


写真1 焼夷弾の検出

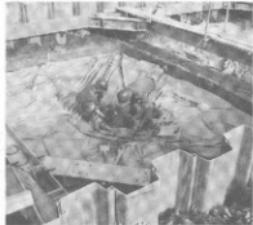


写真2 処理の様子



写真3 焼夷弾のとりあげ

家族の戦争体験を聞いてきなさい、かつてこのようない宿題がありました。母は東京大空襲の体験者でした。多くのエピソードをそのとき聞いた覚えがあります。ちょっと思い出しました。「花火を見ているようだった。空から火の粉が降ってきた。近くに落ちてきたときは恐ろしかった。いくら消防しても消えなかった。火の粉を浴びた人のやけどは治りにくかった。」当時、漠然と聞き流していた下線部のことば、その意味がようやく理解できたような気になりました。

50年後の焼夷弾は、私の軍手を燃やしただけで済みました。50年前の焼夷弾は、街を、生命を燃やし尽くしたのでした。燃やし尽くすためのものでした。大量破壊を目的とした道具の発掘は興味深いものがありました。しかし、このような道具の使用は、決して体験してはならない、体験させてはならないとあらためて思いました。

95年度は終戦50周年の年でした。様々な催し物が計画され、岡山でも戦災50周年として、官民とわざ様々な行事が行われました。市関係でも、福祉総務課では岡山空襲の惨状を伝える建築物などに説明板の設置を行っています（付図参照）。また、戦災遺跡を保存する活動が有志で取り組まれ、写真集が発行されました。

（36頁へ続く）

みなみかた
南方(中電)遺跡

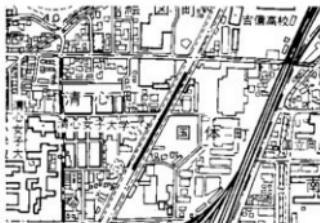
所 在 地	岡山市国体町1-16~2-22地先	調査期間	950619~950804
調査原因	電線地中下埋設	調査面積	360m ²
時 代	弥生時代~中世		
担 当 者	神谷 正義・乗岡 実・扇崎 高橋 伸二・河田 健司・安川 满	由・草原 孝典・	

調査の概要 当調査は、幅2m足らず長さ約240mの南北方向のいわば長大なトレンチである。調査区の南部は南方遺跡の西部分にあたり、平安時代から中世の遺構や弥生時代中期から後期の遺構が予想され、また遺跡の北限が把握できると期待された。同様に表層地形の観察の絶好の機会であった。

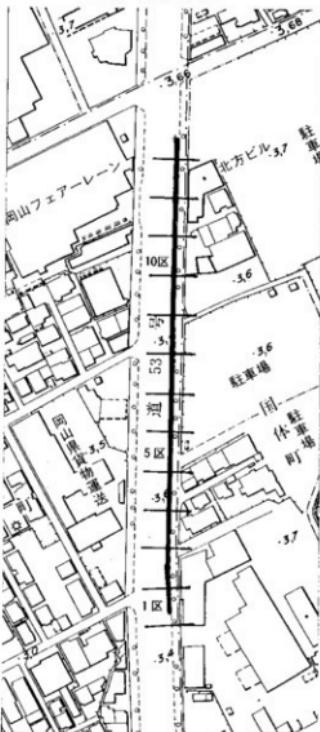
夜間の限られた条件下の調査のため、遺構の検出や層位の認識、測量など必ずしも十分とはいえない。

工事基点から北へ20m毎に1区・2区・・・と呼称する。自然堤防基盤層は、1区から3区15m付近まで地表下1.5~1.7mで確認された。これより北では弥生前期後半までさかのぼる溝があり、調査深度2mでは底面は確認できなかった。4区18m地点から北では平安時代の湿地層があり南方(済生会)遺跡の成果とも合わせると、南方遺跡の北限は6~7区の中に求められよう。13区では弥生時代以降水田耕作により上面を削平されているが、自然堤防基盤層が確認され北へ高くなっていく。

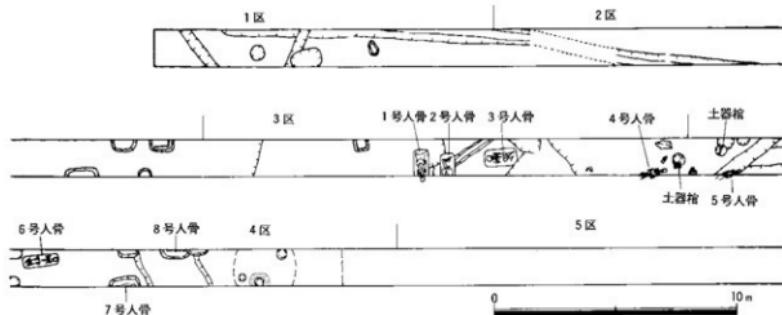
弥生後期の包含層は3区15m~4区18mで確認され、土器棺2、土壙墓(6~8号人骨)などが検出された。弥生前期から中期の遺構としては溝や土坑、住居跡の他、土壙墓・木棺墓が確認された。住居跡は貼り床状の痕跡を直径2.5mの範囲で確認したが、柱穴は不明である。埋葬跡は3区4区に集中し、前期~後期を通じて墓域として活用されたようだ。しかも前期~中期の人骨(1~5号)は遺存状態も比較的良く、1969年に調査された南方(蓮田)遺跡の墓群にはほとんど人骨を伴わないことを合わせると、南方遺跡の墓域として今後の調査に期待がもたれる。



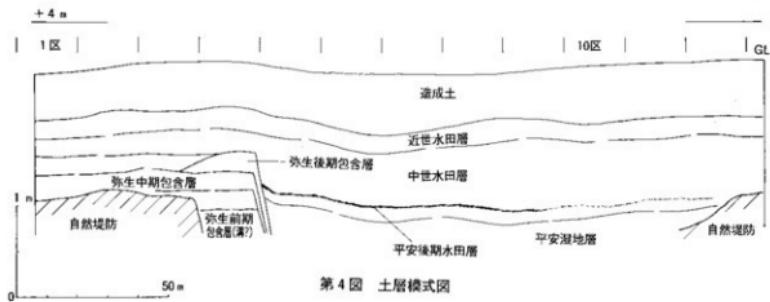
第1図 調査地点



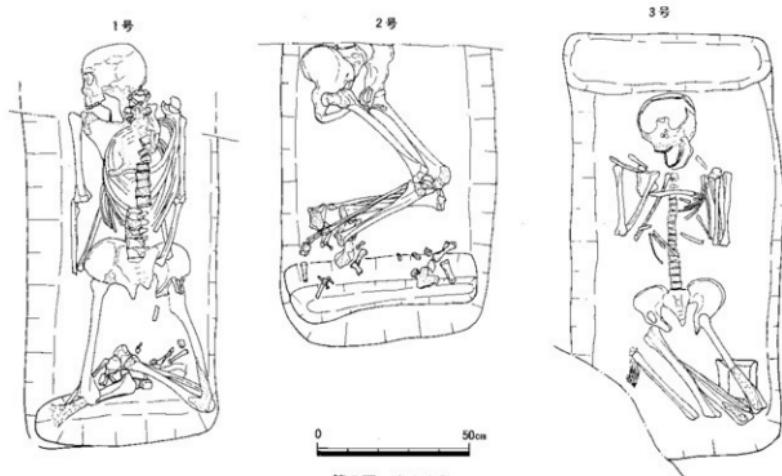
第2図 全体図



第3図 1～5区 弥生時代全体図



第4図 土層模式図



第5図 出土人骨

津島福居(市道)遺跡

所在地 岡山市津島本町1883番地 調査期間 950901～950921
調査原因 市道改修 調査面積 280m²
時代 古墳時代～中世 担当者 高橋 伸二

遺跡の概要 津島福居遺跡は、半田山丘陵の南裾部に位置し背後の丘陵部には都月坂古墳群をはじめ、調査地点の西北付近には中世寺院跡などもあり、事前の試掘調査の結果から古墳時代から中世にかけての遺構の存在が予想された。

調査の概要 調査は旧岡山病院の跡地で、市道の改修工事に伴って下水道管が埋設される部分を対象におこなった。

調査区は前記したとおり、下水管の埋設部を対象としたため幅1.5メートル、延長180メートル余のトレソチを設定した。

調査地点はすでに病院建設の際の造成で緩斜面に大きく五つの段が形成され、かなりの削平をうけているほか建物の基礎などによっても搅乱をうけている。

調査は調査区の北よりの斜面上方より掘削機械で表土のすき取りを行い、遺構の確認を行うという方法をとった。

その結果、古墳時代の溝、土坑、段状遺構等を確認したほか、平安時代末期の造成土層、中世の柱穴群等を検出した。

出土遺物は、古墳時代の溝SD41で出土した土師質の鉢と甕以外はほとんどが細片であるが若干量の須恵器も検出された。

平安時代末から中世にかけての遺物は、土師質の椀、備前焼、中国製の青磁片などがあるが、いずれも細片である。

まとめ 今回の調査では古墳時代の溝や土坑をはじめ、平安時代末から中世にかけての柱穴等を確認するにいたった。しかし、幅1.5メートルという狭いトレソチでの調査となったため全体像の把握は困難ではあるが、調査区周辺の丘陵地にも古墳時代および平安時代末期から中世にかけての集落が広がっている可能性がある。

また、調査区周辺には中世の寺院跡や城郭なども存在しており、これら周辺の遺跡との関係も考慮される。



第1図 調査地点



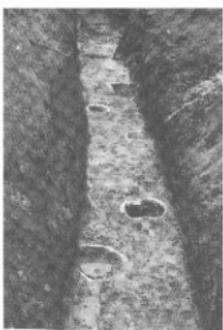
第2図 調査着手前



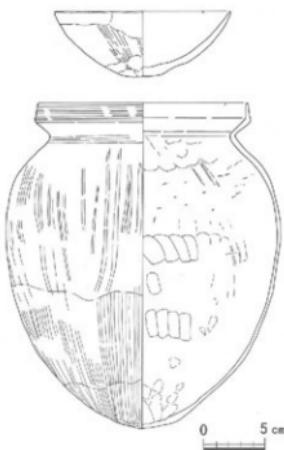
第3図 SD41



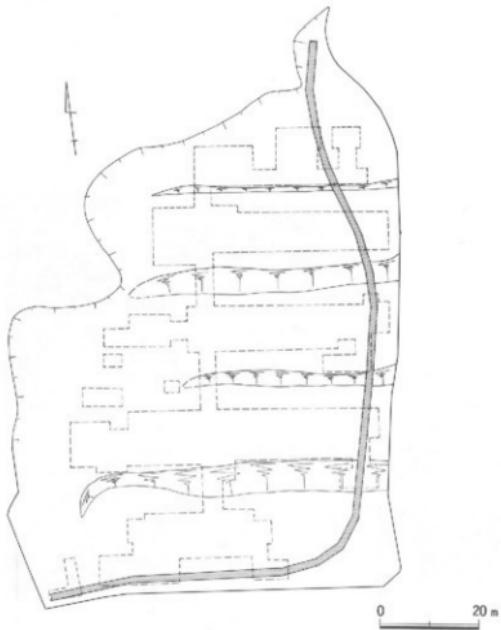
第4図 中世遺構面



第5図 古墳時代遺構面



第6図 SD41出土土器



第7図 調査区配置

おはりじんじやみなみ
尾針神社南遺跡

所在地 岡山市京山二丁目1377-1

届出者 東京都中央区八重洲二丁目3番13号

藤和不動産株式会社取締役社長 藤田 公康

発見年月日 950707

発見の事情 土木工事中（基礎掘削方）

発見の経緯 尾針神社は延喜式神名帳に記載されている御野郡八座の一つである。境内には大岩や土器等の散布が認められ、磐座とみなされていた。しかし、当該地は傾斜地でもあることから磐座の範囲外との判断を示し、遺跡周辺地として基礎掘削時立会を行った。道路反対側の近接地は湿地堆積状況を示していたことも、その判断に影響を及ぼしていた。ところが、基礎掘削時立会の結果道路側に包含層を認め、当該地が埋蔵文化財包蔵地であることが確認された。遺跡は、尾針神社の南斜面一帯に拡がっているものと推測される。

遺跡の概要 当該地の大半は緩やかな傾斜地であり、かつて宮司が居住していた家が2棟程建っていた。

立会時、基礎掘削はかなり進行していた。その掘削断面の観察によると、地山を削り段を形成している様子が捉えられた。段は三ないし四段ほどが認められた。下段には瓦が混入する柱穴が複数検出され、古代の建物の存在を予想させた。また、中段には須恵器蓋・身3個体、甕1個体、甕1個体分が埋納される土壤が検出された。上段には壁帯溝と思われる小溝が段壁に沿って検出されており、竪穴式住居の存在も予想される。一段あたりの面積はそれほど広くなく、普通の建物や住居跡が建つ程度の幅であろう。しかも敷地南端、道路付近はすでに湿地堆積土の状況であり、遺構が形成される面積の余地は広くない。なお尾針神社の北側も湿地状況であった。狭い空間を段造成を行い効率的に活用している様相が想起されるのである。

そのほか包含土層中からは、破片ながら弥生土器・埴輪・土師器等が検出された。各時期の遺構の存在を予想させる。

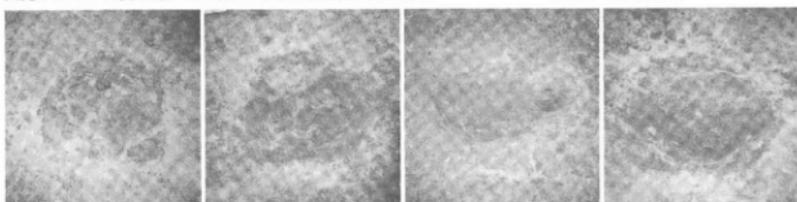
まとめ 延喜式神名帳に記載の尾針神社が、当神社であるとの確証はない。しかし、当該地から南側の平野開発にはこの山麓を迂回して流れる用水を無視することは



第1図 発見の位置



第2図 立会の状況

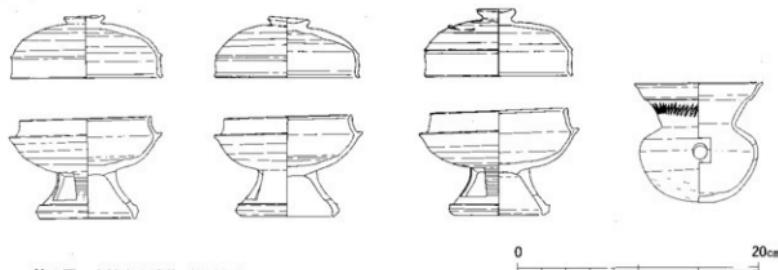


第3図 柱穴の検出状況

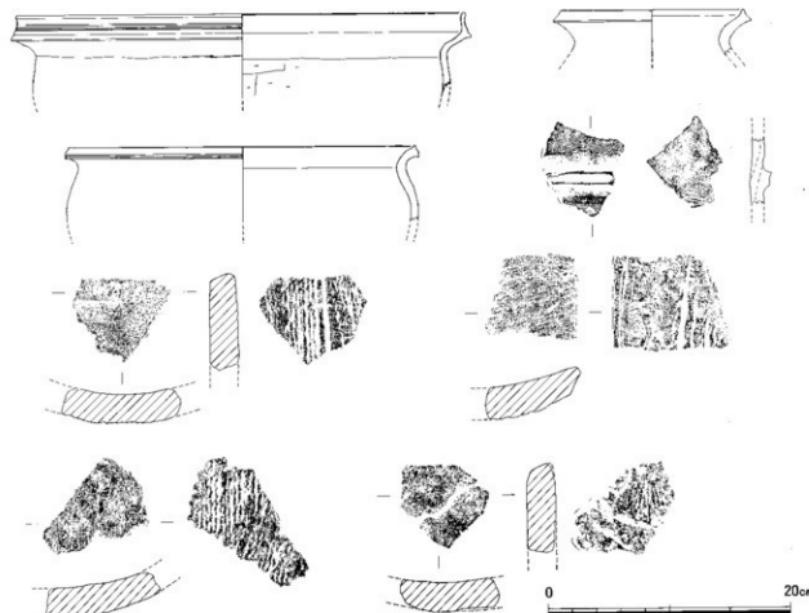
出来ず、この地の掌握は以南の開発に重要な位置を占めていたと思われる。さらに当神社が、尾針ニオハリニ小治（小堀田）であることから地元の農業生産に由来する祭祀地であり、また南に位置する国神社の存在と合わせてみても、開発上の重要地域と考える意見は首肯できよう。古代建物の存在は、当該地がそのように觀念されていたと想定され、管理施設等の存在が予想される。それが後にこの地が象徴的場所と認識され、神社として聖域化されたのではないだろうか。あるいは神社に関連する建物が既に所在していたのかもしれない。どちらにせよ、今後周辺部の遺跡の内容が注目される地域である。

須恵器が埋納されていた土壙は祭祀行為に係わる遺構と判断される。この祭祀行為の対象が何であったかは推測の域をでないが、状況からして地鎮に係わるもの可能性が高い。吉備津田淵後遺跡でも、同様の器種構成による川辺の祭祀跡が検出されている。

5 C末の須恵器を作り祭祀跡が最近確認されるようになってきている。その一資料を提供できた意義は大きい。



第4図 土壙出土遺物（須恵器）



第5図 包含層出土遺物

南方(岡山牛乳)遺跡

所 在 地 岡山市南方一丁目7-103~105,108

届 出 者 岡山市南方一丁目7番13号

岡山牛乳株式会社代表取締役小林茂則

発見年月日 960109

出 土 物 土木工事中(共同住宅基礎掘方)

発見の経緯 当該地は、岡山平野の北半に位置しており、旭川が網の目状に分流を始めた初っぽの付近にある。当該地の北ないし西側付近には、弥生時代中期で著名な南方釜田遺跡や南方蓮田・宝崎遺跡などが所在し、岡山平野の弥生中期には一大集落地を形成していた。当該地も南方遺跡の一角に位置していると思われ、事前に試掘確認調査を実施した。結果はシルトと粗砂層の検出のみであった。また、北東にあたる周辺地の確認調査の結果も河道堆積土層を示していた。この地域では微高地は流路に沿って北東から南西方向に形成されていると想定されていたから、当該地も湿地ないし河道部分と判断したのである。そして、基礎掘削時に立会し最終的に遺跡の有無の確認を実施することとした。ところが、基礎掘削時立会により、包含層が確認されたので遺跡発見届を提出した。と同時に掘削工事に並行して記録等をとった。

遺跡の概要 当該地内は微高地と河道及び河道に至る傾斜面とが認められる。試掘はこの河道部分に設定していたのである。北半は河道と斜面堆積、南半は微高地部を形成している。微高地は北東から南西方向に形成されていた。

微高地側には住居跡らしい落ち込みや柱穴等がみられた。また古代の大溝と中世の柱穴等も検出されている。斜面堆積部分には灰穴が検出され、弥生中期の土器が出土した。古代溝は東西方向に延び、現状で幅1.4m、深さは0.5mを測る。条里遺構の一部と予想される。埋土からは牛頭骨がほぼ完全な姿で出土した。

当該地の南側、岡山地方裁判所付近の水道管改修工事の立会で微高地とその斜面部が確認されてきている。時代は弥生中期である。当遺跡の範囲は、裁判所付近までは広がっていることが予想される。

まとめ 南方遺跡周辺に新たな微高地が確認され、弥生中期を中心とした南方遺跡群の範囲がさらに拡がることが判明した。豊富な資料を提供してきた南方遺跡群の、範囲を広げた当遺跡発見の意義は大きい。また、小河川に分断された各遺跡群は、各々どのような特徴を持っていたのか、そしてどのようにまとまっていたのか、興味は尽きない地域である。

古代ないし中世の遺構が検出された。全貌は不詳であるが、弘西郷想定域内でもあることから今後の資料の蓄積が期待される。



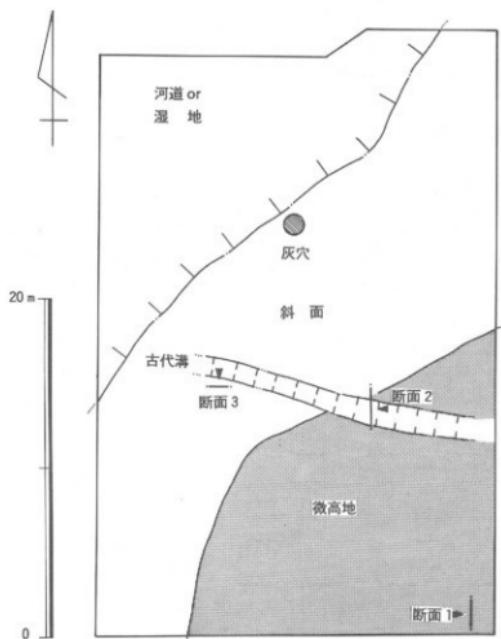
第1図 遺跡の位置



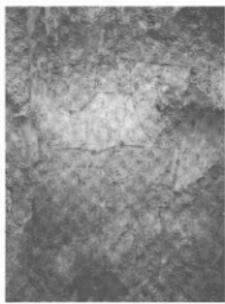
第2図 断面2 (古代溝)



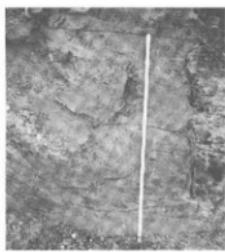
第3図 古代溝出土牛頭骨



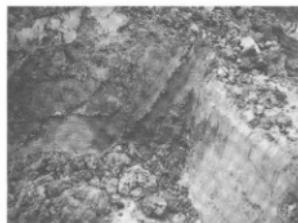
第4図 地形概念図



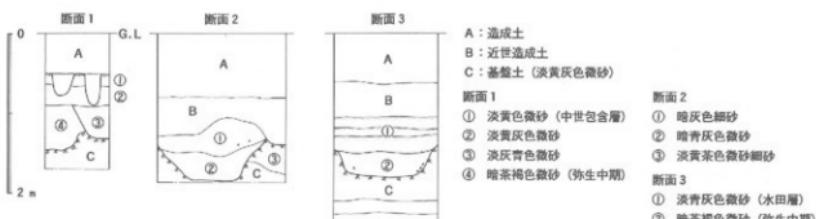
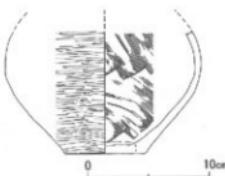
第5図 断面1



第6図 遺構検出状況



第7図 灰穴検出状況と出土土器

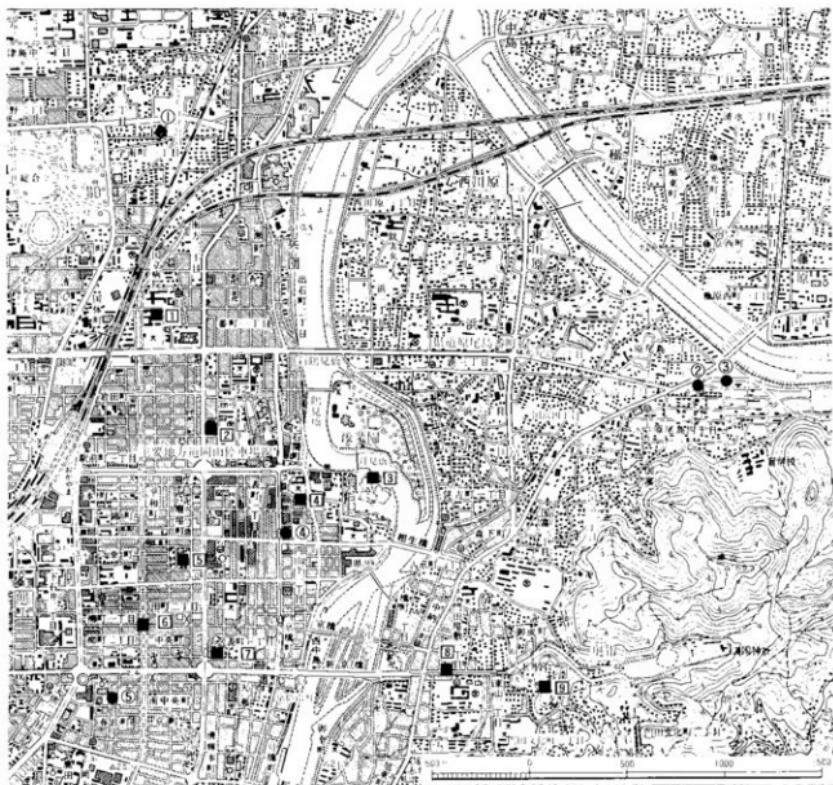


第8図 断面土層模式図

文化課ではなにもやっていません。恥ずかしいことです。50周年だからとの感概は特に持つてはいませんでしたが、岡山もかつて「戦場」であったことを想起する機会は大切にするべきでした。

発掘報告書に記載されてこなかった戦災の痕跡。今後は記載していこうと思いました。(M.K)

コラム付図 岡山市における焼夷弾痕跡検出遺跡



〈凡例〉 ● 焼夷弾痕跡検出遺跡（岡山市調査分）

■ 戦災遺跡・被災建築物説明板設置場所（岡山市福祉総務課96年度分まで）

- | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|---------|---------|----------------|----------|--------------|---------|----------|-----------|-------|-------|-----------|-------|----------|
| ① 津島中溝遺跡 | ② 原尾島遺跡 | ③ 原尾島遺跡 | ④ 岡山城二の丸(中銀)遺構 | ⑤ 大供中道遺跡 | ⑥ 南方小学校赤レンガ辦 | ⑦ 本行寺山門 | ⑧ 向山城天主台 | ⑨ 向山城石山門跡 | ⑩ 蓮昌寺 | ⑪ 田町橋 | ⑫ 大雲寺日隈地蔵 | ⑬ 三友寺 | ⑭ 玉井宮石鳥居 |
|----------|---------|---------|----------------|----------|--------------|---------|----------|-----------|-------|-------|-----------|-------|----------|

II. 埋蔵文化財関連の協議と調整

発掘調査とその整理作業。文化財係の仕事はこれだけではない。分布調査・確認調査を経て、開発が埋蔵文化財に影響を及ぼすかどうかを調べる。その結果を踏まえて、文化財の保護行政に反映させるのも、主要な仕事内容である。

岡山市では開発行為事前指導時及び建築確認申請時に、埋蔵文化財の存在状況に関する助言及び指導を行っている。その内容・協議次第で、立会・試掘・設計変更の指導を行い、最後の手段として発掘調査を計画・実施する。

1995（平成7）年度は、建築確認申請時に254件の相談があり、そのうち立会73件・試掘29件に対応した。

その協議の過程において、文化財保護法に基づく提出書類の進達・伝達事務がある。岡山市教育委員会で取り扱った埋蔵文化財発掘の届出・通知等（直営分を含む）の一覧を表示しておく。なお、一覧は文化課受付日において年度の区分けをしている。

埋蔵文化財発掘の通知（第98条の2）	8件
埋蔵文化財発掘の届出（第57条の3）	26件
埋蔵文化財発掘の届出（第57条の1）	3件
埋蔵文化財発掘の届出（第57条の2）	29件
指定史跡の現状変更許可の通知（法第80条）	7件
遺跡発見の届け出・通知（第57条の5・6）	9件

埋蔵文化財発掘調査の通知（第98条の2）

種類および名称	所 在 地	面 積 m ²	目 的	主 体 者	期 間
散 布 地 難 町 遺 跡	岡山市難町350-8・9・11・12	30	公園造成	岡山市教育委員会 教育長 戸村彰孝	950629 ～950630
散 布 地・集 落 残 南 方 遺 跡	岡山市国体町1-16地先	9.6	水道管分岐部の新設	岡山市教育委員会 教育長 戸村彰孝	950816 ～950823
集 落 残 西 佐 橋 本 遺 跡	岡山市西佐179番地	600	学校校舎建築	岡山市教育委員会 教育長 戸村彰孝	951001 ～950331
散 布 地 庚 申 山 東 遺 跡	岡山市新庄上字岩崎232	60	携帯電話機基地局の設置	岡山市教育委員会 教育長 戸村彰孝	950925 ～951020
古 墳 墳 未 銘 々	岡山市下足守字長坂872・ 字カズラオ865-1	1244.96	土砂採取	岡山市教育委員会 教育長 戸村彰孝	951010 ～951130
集 落 残・生 産 遺 跡 津 島 遺 跡	岡山市新野一丁目1番地先	25	下水道工事	岡山市教育委員会 教育長 戸村彰孝	960110 ～960331
散 布 地・生 産 遺 跡 原 尾 島 遺 跡	岡山市原尾島863-13地先	11.52	下水道立坑掘削	岡山市教育委員会 教育長 戸村彰孝	960210 ～960330
集 落 残・生 産 遺 跡 津 島 遺 跡	岡山市いだみ町地内	12.8	水道管推進工事立坑掘削	岡山市教育委員会 教育長 戸村彰孝	960401 ～960731

埋蔵文化財発掘の届出（第57条の3）

種類および名称	所 在 地	面 積 m ²	目 的	主 体 者	期 間
集 南 方 遺 跡	国体町1-16地先	9.4	試験掘	岡山市水道事業管理者 水道局長 遠藤嘉昭	9504 ～9504
集 南 方 遺 跡	国体町1-16地先	6.0	試験掘	岡山市水道事業管理者 水道局長 遠藤嘉昭	950522 ～950523
集 落 残 津 島 四 大 遺 跡	岡山市津島中二丁目1番1号	641	岡山大学福利施設（南）新宮工事	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長 小坂二度見	960801 ～970320
集 南 方 遺 跡	岡山市国体町1-16地先 ～国体町5-23地先	400	配水管布設工事	岡山市水道事業管理者 水道局長 遠藤嘉昭	950816 ～951031
集 落 残 津 島 遺 跡	岡山市津島南一・二丁目 津島新野一・二丁目	81.25	地下埋設物確認のための試掘	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長 安宅敬祐	950724 ～950805
集 落 残 西 佐 橋 本 遺 跡	岡山市西佐179番地	600	学校校舎建築	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長 安宅敬祐	951001 ～960331
散 布 地 津 島 福 居 遺 跡	岡山市津島福居二丁目 ・津島福居一丁目・津島本町地内	280	下水道工事・道路改良	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長 安宅敬祐	950901 ～960331
城 堀 距 岡 山 城 二 の 丸	岡山市丸の内一丁目2-12地先 ～丸の内一丁目2-4地先	102	配水管布設工事	岡山市水道事業管理者 水道局長 遠藤嘉昭	950828 ～951018
集 落 残 鹿 田 遺 跡	岡山市鹿田町二丁目5番1号	111	岡山大学基幹整備工事 (中診査等改修その他)	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長 小坂二度見	950906 ～960325
集 落 残 三 手 遺 跡	岡山市三手、小山地内	100.85	岡山市上水道配水管整備 計画による配水管設工事	岡山市水道事業管理者 水道局長 遠藤嘉昭	951301 ～960229

散 布 地 田 益 遺 跡	岡山市田益地内	645.63	岡山市上木道配水管整備 計画による配水管設工事	岡山市水道事業管理者 水道局長 遠藤嘉昭	961101 ~960229
集 落 跡 吉 野 口 遺 跡	岡山市吉野口1708-4、1712-2・3、1716-1・2、1718-4	6.5	防球ネット支柱設置	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長 安宅敬祐	961115 ~960325
集落跡・生産遺跡 原 尾 烏 遺 跡	岡山市原尾島、 原尾島西丁目・沢田	2141	下水道工事	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長 安宅敬祐	960210 ~960330
集 落 跡 津 島 遺 跡	岡山市津島新野一丁目	34.19	下水道工事	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長 安宅敬祐	960110 ~
散 布 地 未 命 名	岡山市鹿田本町202-9番地先	22.5	下水道工事	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長 安宅敬祐	961207 ~960120
集 落 跡 津 島 岡 大 遺 跡	岡山市津島中三丁目1番1号	500	岡山大学サテライト・ベンチャー ・ビジネス・ラボラトリ－新宮工	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長 小坂二度見	960906 ~960325
集 落 跡 足 守 藩 武 家 里 敷 跡	岡山市足守766-1地先 ~足守755地先	60.2	水道管布設	岡山市鹿田町二丁目1-1 岡山市水道事業管理者	960213 ~960319
集 落 跡 南 方 遺 跡	岡山市南方一丁目1-29地先～ 南方一丁目2-13地先	60.2	水道管布設	岡山市鹿田町二丁目1-1 岡山市水道事業管理者	960220 ~960325
集 落 跡 津 島 遺 跡	岡山市いずみ町地内	12.8	上水道配管事業による 水道管推進工事	岡山市鹿田町二丁目1-1 岡山市水道事業管理者	960220 ~960325
集 落 跡 津 島 岡 大 遺 跡	岡山市津島中一丁目1番1号 実験施設新宮工事	466	岡山大学(農・園)動物 実験施設新宮工事	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長 小坂二度見	960408 ~961019
集 落 跡 雄 町 遺 跡	岡山市雄町350番地8・9 ・11・12	1560	冷泉公園建設 擁壁掘削	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長 安宅敬祐	950515 ~960331
散 布 地 雄 町 遺 跡	岡山市雄町350番地8・9 ・11・12	1560	冷泉公園建設 擁壁掘削	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長 安宅敬祐	950518 ~960331
集 落 跡	岡山市加茂542	40	水路擁壁掘削	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長 安宅敬祐	9603 ~960329
集 落 跡	岡山市加茂	800	道路擁壁	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長 安宅敬祐	9510 ~960331
散 布 地	岡山市津寺273	1200	道路・水路擁壁掘削	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長 安宅敬祐	9510 ~960331
散 布 地 雄 町 遺 跡	岡山市雄町350番地8・9 350番地11・12		公園造成 浄化槽設置	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長 安宅敬祐	9604 ~96

埋蔵文化財発掘の届出（第57条の1）

種類および名称	所 在 地	面 積 m ²	目 的	主 体 者	期 間
集 落 跡 津 島 岡 大 遺 跡	岡山市津島中二丁目1番1号	960	学校(岡山大学福利施設(南)新 宮工事)	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長 小坂二度見	960901 ~960329
集 落 跡 津 島 岡 大 遺 跡	岡山市津島中三丁目1番1号	610	岡山大学サテライト・ベンチャー ・ビジネス・ラボラトリ－新宮工事	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長 小坂二度見	951218 ~960322
集 落 跡 尾 田 遺 跡	岡山市鹿田町二丁目5番1号	2	医学部野球場防護ネット取扱工事	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長 小坂二度見	960201 ~960329

埋蔵文化財発掘の届出（第57条の2）

種類および名称	所 在 地	面 積 m ²	目 的	主 体 者	期 間
散 布 地 南 方 遺 跡	岡山市南方二丁目277-6	588.90	集合住宅建設	岡山市津島南一丁目 7-20 松本勝夫	950616 ~960216
集 南 方 落 跡	岡山市南方二丁目269	213.35	特定郵便局新築工事	岡山市南方二丁目11番4号 小橋匠	950615 ~951130
生 南 方 遺 跡	岡山市奉還町一丁目1-11	975.7	その他建物（カラオケスタジオ）	岡山市野田屋町一丁目8番21号 浅野美智子	950610 ~951130
散 布 地 南 方 遺 跡	岡山市国体町1-101外	713.83	その他建物（本社ビル）	岡山市今2-16-31 吉澤システム株式会社 代表取締役小原正敬	9506 ~9605
散 布 地 津 烏 遺 跡	岡山市学南町二丁目165-6・9、 166-3・6	183.66	集合住宅建設	岡山市学南町二丁目5-14 小林保之助	950720 ~960331
集 落 落・散 布 地 津 烏 遺 跡	岡山市学南町二丁目142-2	130.50	集合住宅	岡山市学南町二丁目2番26号 山形弘之	950910 ~960201
城 館 跡 岡山城二の丸跡	岡山市内山下一丁目10-12番地先	168.4	電力ケーブル管理設工事	岡山市青江239番地の1 中国電力株式会社岡山営業所 所長 桂真一郎	951005 ~960125
散布地・生產遺跡 津 烏 遺 跡	岡山市学南町二丁目205-2 +206-4・5	622.67	集合住宅	岡山市学南町二丁目5-13 北村実	950916 ~960229
集 落 跡 津 烏 遺 跡	岡山市いづみ町2	2.1	PIS基地局設置に伴う 埋設配管工事	岡山市津倉町2-2-2 株式会社テクニカル中国 岡山支店 満手豪一郎	9509 ~9509
散 布 地 疾 中 山 東 遺 跡	岡山市新庄上字岩崎232番地	137	自動車・携帯電話基地局の建設	広島市中区轟町ビル 株式会社テクニカル中国 代表取締役社長 関本充生	9510 ~9510
そ の 他 の 遺 跡 北方地 藏 遺 跡	岡山市大和町2丁目10-25	0.785	電柱建設工事	岡山市青江239番地の1 中国電力株式会社岡山営業所 所長 桂真一郎	950920 ~951010
散 布 地 田 益 遺 跡	岡山市田益字石立1633番1地先	43.50	電力ケーブル管理設工事	岡山市福成三丁目4番11号 中国電力株式会社岡山電力所 所長 森脇伸哉	951120 ~951222
散 布 地・集落跡 南 方 遺 跡	岡山市国体町1番16号 ~国体町3番2号	17.6	ガス管取り替え工事	岡山市桜橋二丁目1番1号 岡山瓦斯株式会社 取締役社長 既崎彬	9511初 ~9511末
散 布 地・集落跡 南 方 遺 跡	岡山市南方五丁目1-1	85.43	ガス管新設埋設	岡山市桜橋二丁目1番1号 岡山瓦斯株式会社 取締役社長 既崎彬	9511中 ~9512末
集 落 跡 南 方 遺 跡	岡山市国体町地先	52.5	電力ケーブル管理設工事	岡山市青江239番地の1 中国電力株式会社岡山営業所 所長 桂真一郎	951110 ~951210
城 館 跡 岡山城二の丸	岡山市内山下一丁目11番地先	44.92	電力ケーブル管理設工事	岡山市福成三丁目4番11号 中国電力株式会社岡山電力所 所長 森脇伸哉	951023 ~951222
集 落 跡 南 方 遺 跡	岡山市国体町4-6番地先	21.1	有線テレビジョン設備設置	岡山市野田五丁目8番地8号 岡山ネットワーク株式会社 代表取締役 花房清人	9511中旬 ~9511下旬
散 布 地 未 命 名	岡山市鹿田本町1-202	39.7	ガス管移設	岡山市桜橋二丁目1番1号 岡山瓦斯株式会社 取締役社長 既崎彬	951204 ~951209
城 館 跡 岡山城二の丸	岡山市丸の内二丁目7-108	448.26	商業ビル建設	岡山市下石井一丁目2番3号 株式会社秋原 取締役社長 林原健	9602末 ~9608末
そ の 他 の 遺 跡 北方地 藏 遺 跡	岡山市大和町2丁目10-25	0.785	電柱建設工事	岡山市青江239番地の1 中国電力株式会社岡山営業所 所長 桂真一郎	951213 ~951220

集落跡 津島江道遺跡	岡山市津島東一丁目1557-1	309.06	集合住宅建設	岡山市津島東一丁目3-2 武本千春	960210 ~960630
集落跡 津島江道遺跡	岡山市津島東一丁目1557-3番地	261.52	集合住宅建設	岡山市津島東一丁目3番7号 佐藤真人	960221 ~960710
集落跡・社寺跡 赤田遺跡	岡山市赤田106-4	999.18	集合住宅建設	岡山市赤田272 松本芳子	960215 ~960515
生産遺跡 津島遺跡	岡山市学南町二丁目143-4、 143-9	268.42	店舗建設	岡山市西大寺上一丁目1番50号 内藤バスク株式会社 代表取締役 松田栄	960220 ~960515
集落跡 上伊福遺跡	岡山市伊福町四丁目937-26	367.57	食店舗建設	山口県小野田市大学西高泊 字鳥居子岩神67番地9の1 株式会社・オオ 代表取締役社長 小川英明	960329 ~960515
官備前国界跡	岡山市国府市場字南国長56-4、 56-5	2314.22	宅地造成	岡山市赤田175番地 鈴木富太	960320 ~960620
集落跡 赤田遺跡	岡山市赤田字天神木201-1	595.41	集合住宅建設	岡山市赤田238 松本金正	960410 ~960930
集落跡 南方遺跡	岡山市国体町1317-3	340.34	集合住宅建設	岡山市伊福町二丁目27-35 草野邦輔	960501 ~970315
散布地 古宮・田中遺跡	岡山市小山字吉宮244番3外	9746.78	宅地造成	岡山市吉備津1403番地3 ベルデ企画有限公司 代表取締役 片岡憲	960215 ~960815

遺跡発見の届出・通知（第57条の5・6）

遺跡の種類	所在地	発見年月日	発見の事情	発見者	出土遺物
集落跡 弥生	岡山市小山字馬場1241番4外	950614	試掘調査	岡山市吉備津1403番地3 ベルデ企画有限公司 代表取締役 片岡憲	弥生土器
散布地 弥生～奈良	岡山市京山二丁目1377-1	950707	土木工事中 (基礎掘方)	東京都中央区八重洲二丁目3番13号 華和不動産株式会社 取締役社長 藤田公康	弥生土器・須恵器 (高环足身・環)・瓦・土師器
散布地 弥生・古墳	岡山市津島本町1883番地	950713	試掘調査	岡山市大供1丁目番1号 岡山市長 安宅敏祐	弥生土器・土師器 若干
散布地・集落跡 弥生・古墳	岡山市奉還町二丁目18-19	950912	試掘調査	岡山市奉還町二丁目18番19号 医療法人法人仁会岡山中央病院 院長 金重哲三	弥生土器・土師器
集落跡 弥生	岡山市下足守字豊木1850-2	951009	土木工事中	岡山市下足守1912-1 医療法人もたらう整形外科 院長 伊藤士郎	弥生土器
集落跡 弥生・平安	岡山市南方一丁目7-103 ～105・108	960109	土木工事中 (基礎掘方)	岡山市南方一丁目7番13号 岡山市乳株式会社 代表取締役 小林茂則	弥生土器
散布地 中世	岡山市清輝本町7-22	951227	土木工事中 (基礎掘方削方)	岡山市清輝本町7-22 財团法人志賀会岡山紀年病院 理事長 六浦昌士	中世土師質土器 瓦器片
集落跡 弥生	岡山市伊福町西丁目937-26	960125	土木工事中 (基礎掘削削方)	山口県小野田市大学西高泊 字鳥居子岩神67番9-1 株式会社・オ 代表取締役社長 小川英明	弥生土器
集落跡 古墳・中世	岡山市福崎地内	960309	土木工事中 (水路掩壁掘削)	岡山市高松篠吉才247番地 高松土地改良区 理事長 渡邊晴生	土師器・須恵器

国指定史跡の現状変更許可申請（法第80条）

種類 および名称	所在地	面積 m ²	目的	主体者	期間
史跡 津島遺跡	岡山市北いすみ町2番1号	50本	仮設物設置・杭打ち等 (メルヘンスポートフェア)	岡山市学割町3-2-1 メルヘンスポートフェア実行委員会	95106 ~951115
史跡 岡山城跡 3番／901外		68本	仮設物設置・杭打ち等 (95フルーツマーケット)	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長 安宅敬祐	950710 ~950811
史跡 岡山城跡	岡山市丸之内	77.2	仮設物設置 (新能舞台)	岡山市丸之内二丁目1の3 山陽放送株式会社常務取締役 業務局長 関野孝彦	951005 ~951007
史跡 岡山城跡 3番／901外		133本	仮設物設置・杭打ち等	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長 安宅敬祐	951021 ~951119
史跡 岡山城跡 3番902	岡山市丸之内二丁目3番902	1800	本丸中の段発掘調査 内堀の浚渫と堀底面の検出	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長 安宅敬祐	許可日以降 ~960331
史跡 岡山城跡 906・908・909、6番2		13586	内堀の浚渫 ・堀底部構造調査	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長 安宅敬祐	許可日以降 ~970331
史跡 岡山城跡	岡山市丸之内二丁目6番2、 95番1		外照明設備・埋設配線	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長 安宅敬祐	許可日以降 ~960531
史跡 岡山城跡	岡山市丸之内二丁目3番／901				

このほか、市内でおこなわれた発掘調査として以下の遺跡がある。詳細は、「岡山県埋蔵文化財報告26」(岡山県教育委員会、1996年)に紹介されている。

- ・百間川米田・二の荒手・原尾島遺跡（旭川放水路（百間川）改修に伴う発掘調査）
- ・三手遺跡（山陽自動車道拡幅に伴う発掘調査）
- ・根岸古墳（国道2号バイパス建設に伴う発掘調査）
- ・原尾島遺跡（国道2号線原尾島拡幅に伴う発掘調査）
- ・田益田中遺跡（国立岡山病院建設に伴う発掘調査）
- ・田益田中遺跡（笹が瀬川調整池建設に伴う発掘調査）
- ・大日幡山城出城ほか関連遺跡（岡山県広域水道企業団岡山調整池建設に伴う発掘調査）
- ・藤原遺跡（岡山陸運支局書庫建設に伴う発掘調査）
- ・南方遺跡（南方派出所所建設に伴う発掘調査）
- ・北方地蔵・中溝遺跡（都市計画道路万皮国富線建設に伴う発掘調査）

III. 普及・啓発事業と刊行物

岡山市教育委員会は、文化財保護強調週間にあわせて埋蔵文化財展を開催している。また、発掘調査の進捗状況に応じて現地説明会も開催している。普及・啓発事業の一環である。なかでも報告書・普及書の刊行は、文化財係の主要で大切な仕事の一つである。しかし、この分野で立ち後れているのが当市の実情である。この頁の余白が埋まるように努力していきたい、と前回の概要を記した。

95年度の実施は以下の通り。著しい状況の変化はなかった。

埋蔵文化財速報展

1995年10月31日～11月7日 岡山市役所1階市民ホール

過去1年間に調査を実施した遺跡を紹介した。特に岡山城・三手遺跡・南方遺跡等が展示の中心となった。

現地説明会開催状況

・岡山城跡本丸中之段遺跡 1996年3月16日（土）

岡山市のシンボル的存在の城だけに市民の関心は高く、300名ほどが参加。熱心に説明に聞き入っていた。

・南方（済生会）遺跡 1996年2月18日（日）

出土した多くの木器を前に、遺跡の説明をする。150名ほどが参加。

刊行物

「岡山市埋蔵文化財調査の概要 1994年度（平成6）年度」



南方済生会現説風景Ⅰ



南方済生会現説風景Ⅱ

IV. 受領図書一覧

各地の教育委員会及び研究機関から交換図書あるいは寄贈図書として、毎年多くの報告書が岡山市教育委員会に送付されます。それらは、芳田収蔵庫に整理保管しており、発掘調査を進めるうえで適宜参照し活用させていただいています。受領図書一覧を掲載する事によってそのご厚情に感謝の意を表させていただきます。送って頂いている各教育委員会及び研究機関の方々にお礼申し上げます。

凡例

県名（県コード）

所属機関

報告書名（シリーズ名）

発行年月日

福島（07）	会津若松市教育委員会 史跡若松城跡（会津若松市文化財調査報告書45号）	96031	鶴形山道路免振調査報告書(第1次、第2次)（福和市道路調査会報告書第102集） 大内裏非遺跡免振調査報告書(福和市道路調査会報告書第138集)	950331 950324
	いわき市教育委員会 夏井廃寺跡 I	8703	大田南遺跡免振調査報告書(福和市道路調査会報告書第195集)	950328
	夏井廃寺跡 II	8803	大在室塚跡免振調査報告書(福和市道路調査会報告書第196集)	950328
	いわきの考古展	87021	善和の遺跡—写真で見る免振調査の記録—	950331
	いわき市教育文化事業団 いわき市教育文化事業団年報 5	950228	別所上野上遺跡免振調査報告書(第6次)（善和市道路調査会報告書第197集）	950331
	龍門寺遺跡の概要	830703	那花山遺跡免振調査報告書(第2次)（福和市道路調査会報告書第202集）	951130
	下平石遺跡	890215		
群馬（10）	前橋市教育委員会 文化財調査報告書	941220	千葉（12）	
	平成 6 年度市内遺跡免振調査調査報告書	9503	国立歴史民俗博物館 日本庭園データ 1 日本庭園データ 2	950331 950331
	前橋市埋蔵文化財免振調査課		国立歴史民俗博物館研究報告第60集 国立歴史民俗博物館研究報告第64集	950331 950730
	柳橋遺跡	940930	銅鐸の美 国立歴史民俗博物館研究年報 1994年度	951003 951101
	五反田 II 遺跡	950324	財団法人千葉市文化財調査協会 埋蔵文化財調査(市内遺跡)報告書—平成6年度—(市内遺跡報告書第7冊)	950331
	大屋敷遺跡 III	950324	千葉市立加曽利貝冢博物館 貝塚博物館紀要 第22号	950331
	中原遺跡群 IV	950324	縄文土器のつくり方	960331
	荒砥青柳 II 遺跡	950331	市川市教育委員会 下總国分寺遺跡第42地点(その 2)	950331
	高崎市道路調査会 中大隈金井分遺跡	9203	市立市川考古博物館 市立市川考古博物館年報 第21号	931225
	大八木野原 II 遺跡(高崎市道路調査会調査報告書第30集)	950331	市立市川考古博物館年報 第22号	941225
	高崎市教育委員会・高崎市道路調査会 岩持町 I 遺跡	940325	松戸市教育委員会 平成5年度市内遺跡免振調査報告書(松戸市文化財調査報告書第21集)	950331
	飯塚西金井遺跡	941210	下木・小山・荒・堀尾遺跡調査報告(松戸市文化財調査報告書第22集)	950701
	元名石瓦井遺跡	950325	松戸市道ノ上遺跡調査会 瀬ノ上遺跡	951212
	高崎市教育委員会 浜川田貝戸遺跡 III	940930	財団法人市原市文化財センター 市原市文化財センター一年報	941221
	高岡前 II 遺跡 高岡東片・前遺跡(高崎市文化財調査報告書第138集)	950331	市原市文化財センター研究紀要 III	960519
	高崎市埋蔵文化財緊急免振調査報告書(高崎市文化財調査報告書第130集)	950331	朝日市上郷調査官定免振調査報告書(財団法人市原市文化財センター調査報告書第3集)	940331
	東町 IV 遺跡(高崎市文化財調査報告書第138集)	950331	吉奈山越後茶屋跡遺跡 III 地点(財団法人市原市文化財センター調査報告書第54集)	941101
			吉奈山越後茶屋跡(小貝貝塚)(財団法人市原市文化財センター調査報告書第55集)	950328
			市原市本遺跡(第 2 次) (財団法人市原市文化財センター調査報告書第56集)	950331
			市原市中高根山名山遺跡(財団法人市原市文化財センター調査報告書第57集)	950331
埼玉（11）	埼玉市教育委員会 御原跡・大古墳跡、木村遺跡免振調査報告書(福和市内遺跡免振調査報告書第23集)	950331		
	浦和市遺跡調査会 別所 I 遺跡	950325		
	上大保新田遺跡免振調査報告書(福和市道路調査会報告書第175集)	950324		
	下大保新田遺跡免振調査報告書(福和市道路調査会報告書第176集)	940325	帝都高速度交通運営地下鉄 7 号線調査・牛込間遺跡調査会 江戸城外堀跡 牛込御門外橋詰	940331
	今ノ谷遺跡免振調査報告書(第4~5次) (福和市道路調査会報告書第178集)	940325	和泉伯太源上屋敷跡 江戸外堀 犬藏門・桂坂櫓下御河番宿・牛込御門免振調査報告書)	940331
	大古里遺跡免振調査報告書(第15地点・第16地点) (福和市道路調査会報告書第184集)	940325		95
	不動谷遺跡免振調査報告書(福和市道路調査会報告書第187集)	941222	東京大学文学部考古学研究室 東京大学文学部 考古学研究会紀要 第13号	950324
	山久保跡免振調査報告書(第4次) (福和市道路調査会報告書第188集)	950322	國學院大學文学部考古学研究室 得 A 地点第4次免振調査報告書(國學院大學文学部考古学実習報告書第26集)	950331
	大久保領家町 I 遺跡免振調査報告書	930325	物見堀遺跡 1993	950401
	白壁上・台跡免振調査報告書(福和市道路調査会報告書第189集)	950322		
	馬場小山遺跡免振調査報告書(福和市道路調査会報告書第190集)	950324		
	水深足跡・水深遺跡免振調査報告書(福和市道路調査会報告書第191集)	950331		

物見跡遺跡 1994	940710	大島田遺跡（勝山市埋蔵文化財調査報告第9集）	910331
宮内庁陵墓課		白山平泉寺遺跡（勝山市埋蔵文化財調査報告第11集）	950331
御室跡（御室跡）	950331		
千代田区教育委員会			
江戸城跡 和田倉遺跡(千代田区文化財調査報告書7)	9507	長野（20）	
千代田区鷺町六丁目遺跡調査会	951025	松本市教育委員会	
東京都千代田区鷺町六丁目遺跡	951025	松本市商宮遺跡緊急発掘調査報告書(松本市文化財調査報告No.116)	940322
豊島区立郷土史料館		松本市岡田跡緊急発掘調査報告書(松本市文化財調査報告No.116)	950322
千川上水関係史料集 I	950331	松本市中野・昭和・昭和・通渠緊急発掘調査報告書(松本市文化財調査報告No.117)	950322
豊島氏編年史料II	950331	松本市平田北道跡緊急発掘調査報告書(松本市文化財調査報告No.119)	950322
戦争と豊島区	950729	松本市平田北道跡緊急発掘調査報告書(松本市文化財調査報告No.120)	950322
豊島の集團学童読聞資料集(6)	950726	上田市教育委員会	
生活と文化	950331	本丸東虎口格門復元工事報告書	9503
岐阜（21）			
神奈川（14）			
相模原市民俗芸能保存会		岐阜市教育委員会	
さがみはらの民俗芸能 第15号	940331	御器所遺跡	950331
さがみはらの民俗芸能 第16号	950331	岐阜市遺跡調査会	
相模原市教育委員会		寺田遺跡（岐阜市遺跡調査会報告書第2集）	950331
庶民の願い 一相模原の代表講一	950331	可児市教育委員会・可児郷土歴史館	
埋蔵文化財発掘調査報告集	950331	特別展「図録の世界展」	960315
富山（16）		静岡（22）	
富山県文化振興財團		静岡市教育委員会	
埋蔵文化財年報（6）	950331	越後山古墳	
財团法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所		平城遺跡・平城古墳群	
鉄道自動車道関係埋蔵文化財包蔵地調査報告－NE08遺跡－		猿郷2号墳	
（富山県文化振興財团埋蔵文化財発掘調査報告第6集）	950331	有永1号墳	
富山市教育委員会		蛭田遺跡（本編）	
富山市飯野新屋遺跡発掘調査概要	950330	蛭田遺跡（自然科学分析編）	
富山市考古資料館		駿府城跡三ノ丸	
富山市考古資料館記要	950331	ふちゅ～るNo.1 平成3年度静岡市文化財年報	
富山県埋蔵文化財センター		静岡市の埋蔵文化財 発掘調査の概要 平成62年度	
吉倉B遺跡（富山県結合運動公園内遺跡発掘調査報告4）	940331	静岡市の埋蔵文化財 発掘調査の概要 平成63年度	
三島市教育委員会		静岡市の埋蔵文化財 発掘調査の概要 平成元年度	
石川（17）		三島市教育委員会	
金沢市教育委員会		大場川遺跡群	950331
金沢市額新町遺跡（金沢市文化財紀要116）	950331	三島市埋蔵文化財発掘調査報告N	950330
額谷カニカヤ遺跡（金沢市文化財紀要）	950331	三島代官所・市ヶ原廃寺関連遺跡I	950330
本町一丁目遺跡（金沢市文化財紀要117）	950331	文化財年報第6号	940301
南新保D遺跡II（金沢市文化財紀要118）	950330	焼津市歴史民俗資料館	
上荒尾遺跡 I（金沢市文化財紀要120）	950331	焼津市歴史民俗資料館年報 7	940331
金沢市埋蔵文化財調査年報	950331	焼津市歴史民俗資料館年報 8	950331
金沢大学文学部考古学講座		第五指龍丸－平和への願い－	950330
金沢大学考古学紀要 第22号	950301	愛知（23）	
福井（18）		名古屋市教育委員会	
福井市教育委員会		若宮まつり福禄寿車（名古屋市山車調査報告書2）	950331
福井城跡II	940301	高藏遺跡	950228
勝山市教育委員会		肩田町遺跡	950331
		古沢町遺跡	950331

滋賀公園遺跡	95031	小芝遺跡発掘調査報告（2次）	9503
春日野町遺跡	95031	上野市遺跡調査会	
石神遺跡・玉ノ井遺跡・高畠遺跡（第7次）発掘調査報告書	950330	森谷遺跡発掘調査報告	9003
名古屋市見晴台考古資料館年報12	950720	埋蔵文化財範囲確認調査報告書	9503
豊橋市教育委員会・牛呂地区遺跡調査会		鈴鹿市教育委員会	
大西貝塚（豊橋市埋蔵文化財調査報告書第19集）	951031	伊勢国分寺・国府跡2	950331
豊橋市教育委員会		鈴鹿市埋蔵文化財調査年報II	950331
波入江遺跡（豊橋市埋蔵文化財調査報告書第22集）	941225	第4回鈴鹿市埋蔵文化財展	940821
豊橋市教育委員会・豊橋遺跡調査会		姫野町教育委員会	
熊野遺跡（豊橋市埋蔵文化財調査報告書第23集）	950331	上野寺発掘調査報告（姫野町埋蔵文化財調査番号第8集）	950331
吉田城址（II）（豊橋市埋蔵文化財調査報告書第24集）	950331	姫野町歴史資料館	
東田遺跡（豊橋市埋蔵文化財調査報告書第25集）	950331	天白ムラの物語 第2回特別展	951015
一宮市教育委員会			
法圓寺中世墓遺跡発掘調査報告書	950331		
一宮市博物館			
一宮の名宝（N）	949429		
漁の技術史	941022		
田所遺跡と光明寺一大構と墳墓堂一	950721		
瀬戸市教育委員会・財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター			
曉窓跡	950316		
財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター			
木舟中島跡（瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告第10集）	950316	財団法人滋賀県文化財保護協会	
瀬戸市埋蔵文化財センター年報	950601	島追乡遺跡・井筒改良工事に伴う多賀町久慈遺跡発掘調査報告書	950331
財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要	951031	大通寺古墳群	950331
京・鎌倉出土の瀬戸戸	951103	慈恩寺・金剛寺遺跡	9503
豊田市教育委員会		芝原遺跡・出路遺跡	9503
京ヶ森1号墳・谷下塚（豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書第1集）	950331	尼子遺跡	9503
西川1・2号古墳（豊田市埋蔵文化財調査報告書第2集）	950331	財団法人滋賀県文化財保護協会	
坪原遺跡II（豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書第3集）	950331	湯ノ部遺跡発掘調査報告書I	950325
恵ノ木古墳（豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書第4集）	950331	北古墳II（佐野町鶴間遺跡発掘調査報告書I・II・III）	950331
豊田史料叢書	950731	大津市教育委員会	
ふるさとの語り部集 近代の暮らしとII	950615	大谷南遺跡発掘調査報告書（大津市埋蔵文化財調査報告書24）	940331
豊田史料叢書 内藤家文書 編著	951130	長浜市教育委員会	
豊田の文化財（豊田市文化財叢書31）	9503	堀部西遺跡（長浜市埋蔵文化財調査資料第9集）	940217
豊田市郷土資料館		地福寺遺跡・深町遺跡発掘調査報告書	9503
1937-1945:人々の暮らし	950715	墓立遺跡1	950330
名古屋大学文学部考古学研究室		地福寺遺跡・深町遺跡	940531
名古屋大学文学部研究論集122	9503	大塚遺跡（長浜市埋蔵文化財調査資料第12集）	950930
考古資料ソフトテクス写真集	950315	草津市教育委員会	
		草津川改修開通遺跡発掘調査概要報告書（X）	9503
		平成5年度草津市文化財年報（草津市文化財調査報告書第24号）	950331
三重（24）		中主町教育委員会	
津市教育委員会		中主町内遺跡発掘調査年報	9403
六大臣跡・大古道跡発掘調査報告（津市埋蔵文化財調査報告21）	9103	中主町埋蔵文化財発掘調査実報I	9503
上野市教育委員会		中主町内遺跡発掘調査年報	9503
上野市埋蔵文化財年報1	9503		
伊賀国府跡発掘調査報告	9503		
上野市教育委員会・上野市遺跡調査会			
大多田遺跡発掘調査報告（2次）	9303		
小芝遺跡発掘調査報告	9303		
西蓮寺墓所発掘調査報告	9303		
京都（26）			
財団法人京都市埋蔵文化財調査研究センター			
京都府埋蔵文化財情報 第56号			950327
京都府埋蔵文化財情報 第56号			950626
京都府埋蔵文化財情報 第57号			950926
京都府埋蔵文化財情報 第58号			951226
財団法人京都市埋蔵文化財研究所			
京都市埋蔵文化財調査概要			950331
平成4年度京都市埋蔵文化財調査概要			950901
平安宮I（京都市埋蔵文化財研究会調査報告第13号）			960531
向日市教育委員会・財団法人向日市埋蔵文化財センター			

向日市埋蔵文化財調査報告書	950331	八尾市文化財紀要 7	95
財団法人向日市埋蔵文化財センター		大谷女子大学資料館	
向日市埋蔵文化財センター年報 6 都城	941230	坂倉D遺跡	9503
長岡京市教育委員会		福原狹間・坂元狹間・三反田・石堂遺跡	9512
長岡京市文化財調査報告書第33冊	950331	鍋島南遺跡調査会	
長岡京市埋蔵文化財センター		鍋島南遺跡	9503
長岡京市埋蔵文化財センター年報 平成5年度	950815	鍋島南遺跡II	9403
京都大学文学部考古学研究室		富田林市教育委員会	
琵琶湖周辺の6世紀を探る	9503	中世豪須郡跡発掘調査報告(富田林市埋蔵文化財調査報告15)	870331
		平成5年度富田林市内遺跡発掘調査概要(富田林市埋蔵文化財調査報告15)	920331
大阪 (27)		平成4年度富田林市内遺跡発掘調査報告(富田林市埋蔵文化財調査報告22)	930331
大阪府文化財調査研究センター		葛西遺跡調査報告書(富田林市埋蔵文化財調査報告22)	930331
弥生文化博物館 発掘速報展大阪 '96	960130	平成5年度富田林市内遺跡発掘調査報告(富田林市埋蔵文化財調査報告24)	940331
大阪府立弥生文化博物館		甲田南遺跡(富田林市埋蔵文化財調査報告25)	940331
弥生人の食卓―米食事始め―	950422	平成5年度富田林市内遺跡発掘調査報告書(富田林市埋蔵文化財調査報告26)	950331
平成7年秋特別展「高古町への春の道―吉馬の弥生文化―	951007	河内長野市教育委員会	
大阪大学文学部		河内長野市文化財調査報告書 I (河内長野市文化財調査報告書第26号)	950331
日本古代の葬制と社会関係の基礎的研究	9503	河内長野市遺跡調査会	
大阪市教育委員会・財団法人大阪市文化財協会		三市遺跡調査報告書 I (河内長野市遺跡調査会備考)	940331
大阪市埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	950331	西浦遺跡 (河内長野市遺跡調査会報IX)	950330
財団法人大阪市文化財協会		宮の下遺跡 (河内長野市遺跡調査会報 X)	950331
長原・瓜破遺跡発掘調査報告 V	930331	寺之澤跡発掘調査報告 (河内長野市遺跡調査会報 XI)	950331
長原・瓜破遺跡発掘調査報告 VI	930331	羽曳野市教育委員会	
長原・瓜破遺跡発掘調査報告 VII	940331	文化財のしおり	950331
豊中市教育委員会		古川遺跡群(羽曳野市翠島遺跡調査報告書第32)	950331
豊中市埋蔵文化財発掘調査概要(豊中市文化財調査報告第34集)	9503	羽曳野市遺跡調査会	
豊中市埋蔵文化財年報	9503	旧石器のアトリエ -羽曳野市翠島遺跡の石器結合資料-	950509
しょうじ幼稚園東側を中心とした地質調査報告書	8803	泉南市教育委員会	
よなむ文化学園サッカーフィールド跡発掘調査	950331	泉南市遺跡群発掘調査報告 II (泉南市文化財調査報告書第27集)	9503
池田市教育委員会		岡田西・Dの遺跡発掘調査報告書(泉南市文化財調査報告書第28集)	950331
池田市埋蔵文化財発掘調査報告(池田市文化財調査報告19)	940331	近藤屋遺跡群(河内長野市遺跡調査会報告書第28集)	950331
高槻市教育委員会		古代の技術革新	941113
糸川遺跡調査報告(高槻市文化財調査報告第18冊)	950131	泉南市(河内長野市)民家調査報告(泉南市民家資料調査報告2)	940331
高槻市文化財年報	950228	泉南市(河内長野市)遺跡調査報告(泉南市民家資料調査報告3)	950331
橋上遺跡群 19 (高槻市文化財調査概要21)	9503	泉南市文化財年報No. 1 昭和57年~平成5年	950331
ハニワ工場公園(高槻市文化財調査報告書第19冊)	950328	泉南市・泉南市教育委員会	
貝塚市教育委員会		仏教の需要と古代国家	951123
相撲遺跡発掘調査概要(貝塚市埋蔵文化財調査報告第33集)	940331		
作付遺跡発掘調査概要(貝塚市埋蔵文化財調査報告第34集)	941228		
貝塚市遺跡発掘調査概要17(貝塚市埋蔵文化財調査報告第35集)	950331		
枚方市教育委員会			
枚方市埋蔵文化財調査報告(枚方市埋蔵文化財調査報告第22集)	950331		
枚方市教育委員会・財団法人枚方市文化財研究調査会			
飛鳥・奈良時代の河内と大和	940331		
財団法人枚方市文化財研究調査会			
枚方市文化財年報14	950331		
枚方市文化財年報15 (1993年度分)	960107		
八尾市教育委員会			
八尾市内遺跡平成5年度発掘調査報告書 I (八尾市文化財調査報告31)	950331	萬葉・舟川遺跡 II (兵庫県文化財調査報告 第31冊)	850331
八尾市内遺跡平成5年度発掘調査報告書 II (八尾市文化財調査報告32)	950331	坂井寺子遺跡 -旧石器時代の遺跡- (兵庫県文化財調査報告 第36冊)	950331
		堂II・八反長 (兵庫県文化財調査報告 第108冊)	920331
		相野古窯跡群 (兵庫県文化財調査報告 第115冊)	920331
		初代船跡 (兵庫県文化財調査報告 第116冊)	920331
		船岡陣屋跡 (兵庫県文化財調査報告 第118冊)	9301
		岡達跡 (兵庫県文化財調査報告 第120冊)	930331
		長尾・寺内遺跡 II (兵庫県文化財調査報告第120冊)	930210
		淨谷遺跡・熊谷古墳群・玉津丘中遺跡大山地点(兵庫県文化財調査報告第121冊)	930331
		国領・遺跡 (II) (兵庫県文化財調査報告第122冊)	9303

内場山城跡(兵庫県文化財調査報告 第126冊)	930331	西紀・丹南町教育委員会	
大田町遺跡(兵庫県文化財調査報告 第128冊)	9303	西紀・丹南町 西紀町遺跡分布地図	9503
石屋古墳群・船山遺跡(兵庫県文化財調査報告第129冊)	9303		
下加茂遺跡(兵庫県文化財調査報告 第131冊)	940331		
御坂遺跡(兵庫県文化財調査報告 第132冊)	940331	奈良国立文化財研究所飛鳥資料館	
六角遺跡(兵庫県文化財調査報告 第134冊)	940331	古代の形	950325
玉津山中遺跡第3分野(兵庫県文化財調査報告 第135~3冊)	950331	奈良国立文化財研究所	
玉津山中遺跡第4分野(兵庫県文化財調査報告 第135~4冊)	950331	飛鳥・藤原宮発掘調査概報25	9505
山崎山古墳群(兵庫県文化財調査報告 第136冊)	941220	奈良国立文化財研究所内重点領域研究「遺跡探査」事務局	
大池7号墳(兵庫県文化財調査報告 第137冊)	9503	重点領域研究「遺跡探査」ニュースレーター合冊	950331
西脇古墳群(兵庫県文化財調査報告 第141冊)	9503	奈良県教育委員会・奈良県立橿原考古学研究所	
加佐山遺跡・想寺山古跡(兵庫県文化財調査報告 第144冊)	950331	龍王山古墳群(奈良県史跡名勝天然記念物調査報告書 第68冊)	930331
田代跡(兵庫県文化財調査報告 第145冊)	950331	奈良県立橿原考古学研究所	
高田山下藤原跡調査報告書(兵庫県文化財調査報告 第146冊)	950331	考古學論叢	950320
大岡遺跡(兵庫県文化財調査報告 第147冊)	950331	鳥谷口古墳	9403
真南条上3号墳(兵庫県文化財調査報告第148冊)	9503	後出古墳群	930331
神戸市教育委員会		新庄村南麻井と田古墳	9304
西求女塚古墳 第5次・第7次発掘調査概報	951005	奈良県遺跡調査概報	900331
上沢遺跡発掘調査報告書	950331	奈良県遺跡調査概報	910331
特別版 青銅鏡 卓歩呼から浮世絵まで	9510	奈良県遺跡調査概報	930331
平成4年度 神戸市埋蔵文化財年報	9503	瓊島鷹ノ木古墳 第二・三次調査報告書	940319
神戸市埋蔵文化財センター企画展示「海辺の古墳」	940726	奈良県遺跡調査概報 1990年度(第1分冊)	910331
地下に眠る神戸の歴史展Ⅹ	9508	奈良県遺跡調査概報 1991年度(第2分冊)	922331
六甲山麓道跡調査会		奈良県遺跡調査概報 1993年度(第3分冊)	940331
本山北遺跡	950331	橿原考古学研究所年報 20 平成5年度 (1993)	950331
本山中野遺跡	959331	奈良県教育委員会	
神戸市東灘区 郡家遺跡 一跡坪地区第10次調査	951001	平城京左京三條一坊十四坪発掘調査情報	
姫路市教育委員会		奈良県立橿原考古学研究所	
石造遺品叢文集	950331	加守庵寺概報(橿原考古学研究所リーフレット第3号)	950331
姫路市教育委員会・御族山13号墳発掘調査団		橿原考古学研究所彙報 青陵 88号	950725
御族山13号墳(姫路市文化財調査報告)	950331	橿原考古学研究所彙報 青陵 89号	951130
姫路市立城郭研究室		由良大和古代文化研究協会	
城郭研究室年報 Vol.5	960318	『元孫年間 山陵記録』	950329
龍野市教育委員会		社団法人橿原考古学協会	
尾崎遺跡II(龍野市文化財調査報告14)	950330	末永雅雄先生旧蔵図書目録	950815
久義山・前地遺跡(龍野市文化財調査報告15)	950330	奈良県教育委員会・奈良国立文化財研究所	
赤穂市教育委員会		平城左京二条・三条・北条発掘調査報告書―長屋王塚・藤原象耳塚の調査―	950330
津村古墳(赤穂市文化財調査報告書42)	950330	奈良市教育委員会	
三田市教育委員会		平城京東市跡推定地の調査Ⅲ	950331
さんだのいせき ミニ・ミニ企画展	950331	奈良市埋蔵文化財センター紀要	950331
加東郡教育委員会		奈良市埋蔵文化財調査概要報告書	9503
但馬文化財調査年報1992年度(加東郡埋蔵文化財報告1)	950331	大和郡山市教育委員会	
中町教育委員会		郡山城の発掘調査	
安坂・北山田遺跡、坂本・丁田遺跡(中町文化財報告8)	950331	橿原市教育委員会	
多哥寺遺跡(中町文化財報告9)	950331	國歴 橿原市の文化財	950329
貝野前遺跡(中町文化財報告10)	950331	橿原市埋蔵文化財発掘調査報告書(橿原市埋蔵文化財調査報告1)	950331
御津町教育委員会		橿原市古墳資料館	
碇岩南山遺跡I(御津町埋蔵文化財報告1)	9503	藤原の金工	950329
上郡町教育委員会		かしまらの歴史をさぐる3	950916
上郡の文化財 一園・系・町指定文化財 一	9503	平成7年度特別展「橿原遺跡とその時代」	960120

田原本町教育委員会		才ノ神遺跡 普請場遺跡 烏田黒谷 I 遺跡	9603
田原本町埋蔵文化財調査年報 4	940228	松江市教育委員会	
櫛原町教育委員会		史跡松江城保存修理事業報告書	9603
森川千代女	941031	松江市教育委員会・財団法人松江市教育文化振興事業団	
櫛原町内遺跡発掘調査概要報告書 1992年度	950331	筆ノ尾横穴群発掘調査報告書	9601
櫛原町内遺跡発掘調査概要報告書 1993年度	940331	舟津横穴群発掘調査報告書	9603
櫛原町遺跡分布図 1993年度	940331	二名湖遺跡発掘調査報告書	9603
高取町教育委員会		向山 I 号墳遺跡調査報告書 I	9603
越智遺跡第4次発掘調査報告(高取町文化財調査報告第15号)	950331	出雲国分寺跡発掘調査報告書	9603
平成碑辰高取町内遺跡発掘調査報告(高取町文化財調査報告第16号)	950331	寺の前遺跡発掘調査報告書	9603
大淀町教育委員会		柴尾遺跡北張遺跡調査報告書(II)	9603
越部ハサマ遺跡	9603	敷居谷古墳群発掘調査報告書 2	9603
奈良大学文学部考古学研究室		黒田駐遺跡発掘調査報告書	9603
文化財学報 第十二集	940330		
文化財学報 第十三集	950331		
岡山(3 3)			
和歌山(3 0)		岡山県教育委員会	
紀伊風土記の丘管理事務所		土師塚跡・福里塚跡(岡山県埋蔵文化財発掘調査報告95)	941130
発掘調査10年の成果II	941002	大田茶屋遺跡 I (岡山県埋蔵文化財発掘調査報告96)	941130
紀伊風土記の丘年報 第21号	941115	岡山県教育委員会・建設省岡山河川工事事務所	
財團法人和歌山市文化体育振興事業団		吉岡原尾島遺跡(岡山県埋蔵文化財発掘調査報告97)	950331
太田・瀬戸瀬跡(和歌山市埋蔵文化財調査報告書第12号)	951117	岡山県教育委員会	
鶴神下遺跡発掘調査報告(和歌山市文化体育振興事業団調査報告書第11号)	950331	津寺遺跡 I (岡山県埋蔵文化財調査報告98)	950331
堀井アメノ跡(和歌山市埋蔵文化財調査報告書第12号)	950331	松尾古墳群 葦宮古墳群・馬星遺跡(岡山県埋蔵文化財調査報告99)	960331
和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報 1	920331	南溝手遺跡 I (岡山県埋蔵文化財発掘調査報告100)	960331
和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報 2	940331	米田遺跡(岡山県埋蔵文化財発掘調査報告101)	960331
鳥取(3 1)			
鳥取市教育委員会		大年古墳群か(岡山県埋蔵文化財発掘調査報告102)	960331
平成6年度鳥取市内遺跡発掘調査概要報告書	9503	下長田古墳群・上野跡(岡山県埋蔵文化財発掘調査報告103)	961130
財團法人鳥取市教育福祉振興会		岡山県教育委員会・日本道路公団広島建設津山工事事務所	
六部山古墳群II	960331	中國鋼筋コンクリート道建設に伴う発掘調査 2	960331
平成6年度桂見遺跡発掘調査報告書	950331	岡山県教育委員会	
山ヶ鼻遺跡	950331	足守川加茂遺跡・足守川加茂B遺跡 足守川矢部南向遺跡	950331
倉吉市教育委員会		岡山県埋蔵文化財報告25	950331
よみがえる古代の伯耆	940116	円通寺 安養寺 洞松寺(岡山県社寺所有資料調査報告書 5)	
長谷遺跡発掘調査報告書	950318	岡山県立博物館	
倉吉市遺跡分布調査報告書(倉吉市文化財調査報告書第80集)	950320	水と暮らし	951028
古神宮古墓(倉吉市文化財調査報告書第81集)	950320	倉敷市教育委員会・倉敷埋蔵文化財センター	
二子ヶ冢遺跡発掘調査報告書(倉吉市文化財調査報告書第82集)	950331	王子岳苗鹿遺跡(倉敷市埋蔵文化財発掘調査報告第4集)	950331
不入道跡群発掘調査報告書(倉吉市文化財調査報告書第83集)	950320	倉敷埋蔵文化財センター	
島根(3 2)			
島根県教育委員会		倉敷埋蔵文化財センター年報 1	950331
原の前遺跡	950327	倉敷市	
平ラ II 遺跡・吉佐山根 1 号墳・穴神横穴墓群	9503	倉敷市歴史第 5 号	950324
島根県教育委員会・建設省松江工区工事事務所		倉敷市立自然史博物館	
陽徳遺跡・平ラ I 遺跡	9503	昆虫の形と色の驚異	950301
遺跡が語る古代の安来	950331	宇野確雄植物コレクション(4)	960331
塙津山 1 号墳	9503	津山市教育委員会・河辺上原遺跡発掘調査委員会	
		河辺上原遺跡(津山市埋蔵文化財発掘調査報告第54集)	940381
		津山市教育委員会・津山弥生の里文化財センター	
		野村高尾遺跡(津山市埋蔵文化財発掘調査報告第55集)	940331
		平野 津山弥生の里	950331
		津山市教育委員会	

美作国府跡(津市埋蔵文化財発掘調査報告第56集)	95031	年報Ⅹ	9412
津市郷土博物館		研究報告Ⅸ	9503
飯塚竹斎	94108	広島県教育委員会	
津山松平藩町奉行日記 四	95031	草戸千軒町遺跡発掘調査報告Ⅲ	950330
美作国府跡	971007	草戸千軒町遺跡発掘調査報告Ⅳ	951130
津山洋学資料館		広島県立歴史民俗資料館	
洋学研究誌 一演 第3号	9508	年報	950420
總社市教育委員会		弥生のかたち	950428
総社市埋蔵文化財調査年報5	95031	特別企画展 古墳誕生の謎を探る	951006
石原後遺跡(総社市埋蔵文化財発掘調査報告第14集)	95031	庄原市教育委員会	
備前市教育委員会		堀谷殿治跡(庄原市文化財調査報告書3)	950331
備前市の文化財	95031	東広島市教育委員会・財団法人東広島市教育文化振興事業団	
山陽町教育委員会・南方前池遺跡発掘調査団		鶴見川遺跡発掘調査報告(東広島市教育文化振興事業団)	950331
南方前池遺跡	95030	財団法人東広島市教育文化振興事業団・文化財センター	
鴨方町教育委員会		五反田遺跡発掘調査報告	9403
西山撰査	95031	田中遺跡発掘調査報告書	9403
北房町教育委員会		高屋東1号遺跡発掘調査報告書	9403
定北古墳	95031	山口(3 5)	
大原町教育委員会		下関市教育委員会	
川戸古墳群発掘調査報告書	95031	武久西原遺跡(下関市埋蔵文化財調査報告書50)	950331
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター		松ヶ坪遺跡(下関市埋蔵文化財調査報告書51)	950330
岡山大学構内遺跡調査研究年報11		山口大学埋蔵文化財資料館	
岡山大学構内遺跡調査研究年報12	951228	山口大学構内遺跡調査研究年報XII	9403
鶴崎遺跡~83年度(岡山大学構内遺跡調査報告書7)	95031	徳島(3 6)	
津島岡大遺跡第12次調査概要報告	9505	徳島市教育委員会	
鶴崎遺跡~83年度(岡山大学構内遺跡調査報告書8)	951230	阿波を掘る	950124
就実吉備地方文化研究所		徳島市埋蔵文化財発掘調査概要5	950331
吉備地方文化研究第7号	950630	鳴門市教育委員会	
山陽学園大学國際文化学部		轟はしまき山遺跡・鳴山遺跡・鳴寺谷川遺跡(鳴門市埋蔵文化財調査報告書1941220)	
山陽論叢 第2巻	951228	香川(3 7)	
ノートルダム清心女子大学		高松市教育委員会	
ノートルダム清心女子大学紀要(外国语・外国文学編)	960301	浴・長池II遺跡	940331
ノートルダム清心女子大学紀要(文化学編)	960301	浴・松木木遺跡	940331
ノートルダム清心女子大学紀要(国語・国文学編)	960301	丸龜市	
ノートルダム清心女子大学紀要(佐藤哲子・虎次郎・吉田義典著)	960301	丸龜市史	9502
広島(3 4)		愛媛(3 8)	
財團法人広島県埋蔵文化財センター		松山市	
灰塚ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(I)		松山市史	950501
(広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第127集)9403		福岡(4 0)	
山陽自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(X)		九大春日原地区埋蔵文化財調査室	
(広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第129集)9403		九州大学埋蔵文化財調査報告・九州大学筑紫地区通路第一第四層段剖面	9503
中国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(III)		九州歴史資料館	
(広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第131集)9403		九州歴史資料館年報 平成6年度	950615
中国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(IV)		北九州市教育委員会	
(広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第132集)9403		那珂道跡第二地点	930331
寺領古墳(広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第133集)	950331		
長崎1号古墳発掘調査報告(広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第134集)	950331		
那珂城下町遺跡(広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第135集)	9503		
耳本1号古墳(広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第136集)	950331		

中谷遺跡	940331	板付遺跡	950331
高津尾遺跡Ⅲ	9410	野多目台	950331
加用遺跡	950331	クエゾノ遺跡	950331
岡遺跡Ⅲ区	950331	桑原遺跡群	950331
小倉城跡 1	950331	堅粕 2	950331
下貴遺跡(第 2 次)	950310	比恵遺跡群(15)	950331
北九州市立考古博物館		席田青木遺跡 2	950331
研究紀要第 2 号	9506	徳永古墳群 3 女原上ノ谷製鉄址	950331
北九州市立考古博物館年報	950601	長尾遺跡	950331
弥生の鉄文化とその世界	950725	井尻 B 遺跡 3	950331
北九州市教育文化事業団		藤崎遺跡 10	950331
祇園町遺跡 1	940331	大原 C 遺跡 1	950331
祇園町遺跡 2	950331	四箇遺跡 25 次調査・熊本遺跡 2 次調査	950331
永丸遺跡	940331	志賀島・玄界島	950331
潤崎遺跡 3 第 3 地点	940331	福岡城 月見櫓	950331
潤崎遺跡 4 第 4・5 地点	950331	有田・小田部	950331
北方遺跡 第 3・4 次調査	950331	四箇周辺遺跡群(6)	950331
北方遺跡 第 5・6 次調査	950331	大原 A 遺跡 2	950331
貫川遺跡 9	950331	野方久保遺跡 3	950331
貫川遺跡 10	950331	野方久保遺跡 3	950331
長野・早田遺跡 第 4 地点	950331	飯倉 D 遺跡	950331
七条荒生田遺跡	950331	福岡市埋蔵文化財年報 Vol.1	950331
長野城跡	940331	田村遺跡 4	950331
内ヶ江遺跡	950331	周船寺遺跡群	950331
穴生古屋敷遺跡	950331	阪氏二塚古墳	950331
井上遺跡 1 区	950331	警弥郡遺跡 2	950331
草原遺跡・井上遺跡 2 区	950331	雀居遺跡 2・3	950331
カキ遺跡	950331	吉武遺跡群	950331
鬼ヶ原遺跡	950331	入部 V	950331
香月遺跡	950331	小笠木	950331
中島遺跡	950331	有田・小田部 第 22 集	950331
室町遺跡 第 2 地点	950331	板付遺跡	950331
梯力土地区画整理事業関係調査報告 7	950331	鴻臚館跡 5	950331
宗玄寺跡	950331	都地遺跡(4)	950331
上清水遺跡Ⅲ区	950331	福岡城跡	950331
埋蔵文化財調査室年報 11	950331	井尻 B 遺跡 2	950331
研究紀要 第 9 号	950331	大原 A 遺跡 1	950331
福岡市埋蔵文化財センター		比恵遺跡群(17)	950331
福岡市埋蔵文化財センター年報	950210	比恵遺跡群(18)	950331
福岡市教育委員会		久留米市教育委員会	
博多 43	950331	上津・藤光遺跡群(久留米市文化財調査報告書第80集)	950331
博多 44	950331	日渡遺跡(久留米市文化財調査報告書第85集)	950331
博多 45	950331	上津・藤光遺跡群(久留米市文化財調査報告書第86集)	950331
博多 46	950331	安武地区遺跡群Ⅳ(久留米市文化財調査報告書第87集)	950331
博多 47	950331	東部地区埋蔵文化財調査報告書第13集(久留米市文化財調査報告書第88集)	950331
博多 48	950331	筑後国宿跡(久留米市文化財調査報告書第89集)	950331
那珂遺跡 13	950331	ヘボ木遺跡(久留米市文化財調査報告書第90集)	950331
那珂 14	950331	神道遺跡(久留米市文化財調査報告書第91集)	950331
東那珂遺跡 1	950331	大奈寺北部地区遺跡群(久留米市文化財調査報告書第92集)	950331
四箇船石 1	950331	野中三十六遺跡(久留米市文化財調査報告書第94集)	950331

津福西小路遺跡(久留米市文化財調査報告書第95集)	941231
久留米城跡II(久留米市文化財調査報告書第96集)	950131
平成6年度久留米市内遺跡群(久留米市文化財調査報告書第97集)	950331
ヘゴ/太道根千塚群及兔頭調查(久留米市文化財調査報告書第98集)	950331
安武地区遺跡群IX(久留米市文化財調査報告書第99集)	950331
筑後國府跡(久留米市文化財調査報告書第100集)	950331
大津寺北部地区遺跡群(久留米市文化財調査報告書第101集)	950331
小郡市教育委員会	
三沢古墳群II	920331
三國地区遺跡群III(小郡市文化財調査報告書第87集)	940331
苅又地区遺跡群	940331
横隈上内畠遺跡(小郡市文化財調査報告書第89集)	940331
千瀬城山遺跡I(小郡市文化財調査報告書第90集)	940331
発掘された三沢のむかしのくらしー絶景編ー	9403
津古遺跡群II(小郡市文化財調査報告書第92集)	940325
小郡若山遺跡3(小郡市文化財調査報告書第93集)	940331
苅又地区遺跡群	940801
小郡川原田遺跡(小郡市文化財調査報告書第94集)	950131
横隈上ノ原上遺跡(小郡市文化財調査報告書第95集)	950131
太宰府市教育委員会	
筑前国分尼寺跡	9503
太宰府天満宮III	9503
佐野地区遺跡群V	9503
太宰府朱坊跡Ⅵ	9503
太宰府朱坊跡Ⅶ	9503
津屋崎町教育委員会	
財自遺跡群II(津屋崎町文化財調査報告書第10集)	950331
豊津町教育委員会	
甲塚方墳(豊津町文化財調査報告書第13集)	940331
佐賀(41)	
佐賀市教育委員会	
東高木遺跡II(佐賀市文化財調査報告書第57集)	950331
郷園郡田川遺跡(郷園郡田川文化財調査報告書第58集)	950331
原ノ町遺跡II(佐賀市文化財調査報告書第59集)	950331
友貞遺跡II(佐賀市文化財調査報告書第60集)	950331
野田遺跡(佐賀市文化財調査報告書第61集)	950331
河遺跡(佐賀市文化財調査報告書第63集)	950331
大西屋敷遺跡II	950331
鎮西町教育委員会	
敷輪跡、平野跡、石庭三井跡、都原村跡(鎮西町文化財調査報告書第1集)	940331
佐賀県立九州歴史文化館	
北波多村帆柱窯跡	950331
帆柱窯跡(肥前地区古窯跡調査報告書12)	950331
個人	
和佐野喜久生	
東アジアの稻作起源と古代稻作文化	950731

編者ひとこと

最近えろういそがしゅうなつとるがなあ。このまますーと、いくんやろうか。収蔵庫も満杯やし、これからどうなるんじやろうか。あかるい未来がちーともみえへんなあ。

現場、収蔵庫に飛び交う、ぼやき、嘆きの類のなんと多いことか。そういうながらも、部屋をめいいっぱい散らかしまくって整理作業に勤しむ調査員たち。遺跡を前にしては手の抜きかたを知らないじめで愉快な連中の集まりである。

楽しい、元気の出る、充実した職場環境を、ハード・ソフト面の両方で確立したい。少なくともやる気はそがないような環境を。

概要も2号になりました。快適な環境とは言えないもとの発行です。まだまだがんばらなければなりません。もうちょっとはがんばれます。

内容について忌憚ないご意見をお待ちしています。

てなことを書いてから印刷されるまでに、埋文センター建設のうごきが具体的になってきました。調査員たちの夢を現実化するChanceです。期待しています。

94(平成6)年度概要の正誤表

	(誤)	(正)
28頁	発掘の届出 6行目	岡山市赤田246 松本千 年 ⇒武夫
28頁	発見の届出 3行目	山市目黒・長利地内 ⇒岡山市

岡山市埋蔵文化財調査の概要

— 1995年度 —

発行年	1997年3月31日
発 行	岡山市教育委員会
	岡山市大供一丁目1-1
編 集	社会教育部文化課
印 刷	土師印刷工芸株式会社